

教育に関する事務の管理及び執行状況に
係る点検評価報告

(平成24年度事業)

平成25年8月
酒田市教育委員会

目 次

1	点検・評価制度の概要	1
2	点検・評価の対象	1
3	点検・評価の対象	1
4	外部評価者の意見	2
	○ 酒田市教育振興基本計画体系図	10
5	点検・評価の状況	
I	明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
	(1) 確かな学力の向上	
	・ 学力向上対策の充実	11
	・ 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)	12
	・ 読書活動の推進	13
	・ 特別な教育ニーズへの推進	14
	・ 幼保、小、中、高の連携	15
	(2) 豊かな心と健やかな体の育成	
	・ 生徒指導等の充実	16
	・ 体験活動、交流活動の推進 (学校教育課)	17
	・ 体験活動、交流活動の推進 (社会教育課)	18
	・ 相談支援体制の充実	19
	・ 基礎的運動能力の向上	20
	・ 健康教育の推進	21
	・ 食育の推進	22
	・ 安全教育、安全対策の推進	23
	(3) 家庭、学校、地域との連携	
	・ 青少年の健全育成・地域教育力の向上・地域活動の活性化	24
	・ 家庭教育の支援	25
	・ 地域産業界、高等教育機関との連携	26
	・ 青少年指導活動の推進	27
	(4) 教育環境の整備	
	・ 学校施設の整備	28
	・ 学校規模の適正化の推進	30

・ 通学の安全確保	31
・ 学習バスの運行	32
・ 学校 I C T 環境の整備充実	33
・ 教育の機会均等	34
・ 私立学校等の振興	35
(5) 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進	
・ 教職員研修等の充実	36
・ 学校運営の公開と学校評価システムの推進	37
・ 特色ある学校づくりの推進	38
・ 学校施設の地域開放の推進	39
II 世代を超えてまなびあう	
(6) 生涯学習の充実	
・ 生涯学習推進体制の整備・生涯学習社会の基礎づくり 学習機会の提供・地域活動の活性化	40
・ 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携	41
(7) 図書館活動の充実	
・ 図書館機能の充実	42
・ 光丘文庫の保全と活用	43
・ 子どもの読書活動の推進（再掲）	44
IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす	
(10) 歴史・文化遺産の保存と活用	
・ 文化財等の保存及び活用	45
・ 地域における民族文化財の保存と活用	46
・ 地域資料の収集と保存	47
<参考資料>	
・ 地域の教育力向上事業実績	48
・ 生涯学習推進講座開催事業実績	49
・ 東北公益文科大学市民講座実績（内訳）	50

1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第27条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき、作成するものである。

これにより、次年度の事業計画の検討に用いることで効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

平成24年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

なお、平成22年4月策定の酒田市教育振興基本計画に記載されている施策のうち、教育委員会所管の施策について39施策を選定した。

※酒田市教育振興基本計画体系図は、P10のとおり。

3 評価の基準

各施策の評価については、次の視点から総合的に判断し、評価基準によりAからDにランク付けを行う。

(1) 主な事業の取組み内容

- ・施策の目的、目標に照らして、事業の内容は妥当であるか。
- ・事業の対象者、参加者、利用者を意識して事業に取り組んでいるか。
- ・目標を達成するために、事業の対象者や事業の回数等は適切であるか。

(2) 事業の成果

- ・施策の目的、目標に照らして、意義ある成果が達成されているか。
- ・二次的な成果や連鎖的な効果など新たな効果がみられたか。

【評価基準】

ランク	評価基準
A	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果は目標水準以上であることから、今後も積極的に施策を推進（展開）していきたい。
B	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策としての成果には一部未達成の事業もある。今後も概ね現行の方法、手法等により推進していく。
C	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果には一部未達成の事業もある。今後は、課題等を踏まえ、事業の対象や手法について見直しを図りながら展開していく。
D	施策の目的、目標を達成するための課題が多く、各種事業に取り組めないでいる。大幅な事業の見直しを図る。

4 外部評価者の意見

点検・評価にあたっては、法第27条第2項の規定により、次の2名の外部評価者から各分野に関して意見をいただいた。

〔外部評価者〕

元酒田市教育委員会委員 池田 健一
東北公益文科大学 教授 和田 明子

教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見

I 全体を通じた意見

教育振興基本計画記載の施策のうち、今年度は39施策について点検評価を行う方式をとっている。教育委員会所管のほぼ全施策を網羅した形になり、点検評価に対して積極的に取り組む姿勢がうかがえるとともに、より詳細に丁寧な説明を行っていることを評価したい。

施策との対応関係（どの施策の下でどのような事業を行っているか）が明確になり、各施策の点検評価様式もかなり見やすくなり改善されたと考える。

行政評価は、施策の目的、目標の管理のため、事業の公共性、効率化、有益性、有効性、の検証等により実施するものであるが、施策、事業目標の吟味を常に合わせて行うことを望みたい。

特に、「施策」（＝事業の目的及び目標）の達成度を点検、評価するという姿勢を鮮明にするために、「酒田市総合計画（後期計画）」、「酒田市教育振興基本計画」とも対応し、どの程度達成できたか、進捗しているかを評価し、それはどのような基準、根拠または数値データによるものなのかを明記すると、点検評価として記載されている内容をより理解した上で各課の面談に臨めるものと考ええる。

点検評価様式の表記は、「目的」「目標」「事業の概要及び実施状況」「自己の点検結果、評価（課題、方向性）」と具体的で理解しやすい表現になっている。

ただし、「点検結果、自己評価（課題 方向性）」で前年度に表記された事項について当該年度において、どのように取り組み、進めていったかの説明が「事業の概要及び実施状況」で触れられていない場合も多く見受けられ、「施策の目的、目標の達成度と課題への取組状況」が見えにくいものがあった。

各事業の展開に際し、市民に周知を図るなどの広報活動が重要であり、工夫を凝らし、今まで以上に前向きに取り組んでいただきたい。

本事業の点検評価を通じて

- (1) 教育委員会内での事業の各課による連携の推進を望む事業
- (2) 教育委員会所管の事業と教育委員会以外の部署との連携の推進を望む事業
- (3) 教育委員会所管の事業と総合支所との連携の推進を望む事業

については、平成17年の1市3町の合併による新酒田市の誕生からすでに7年以上経過し、

少子高齢化がなお進む中、行政の財政改革、効率化の視点並びに旧来の行政区域を越えての学校統合を今後も進めていく現状において、上記(1)から(3)について類似の事業展開も見受けられることから、各事業の立ち上げや歴史的経過を勘案し、そろそろ年限を決めて「事業の目的、目標」の原点に戻り実施事業の見直しを検討すべきと考える。

Ⅱ 各事業についての意見

1. 確かな学力の向上について

(1) 学力向上施策の充実

- ・ 学力検査の実施により、その分析結果から課題が明らかとなり、指導方法の改善につなげ、対応し実行していることは評価できる。
- ・ 小中学校スクラム事業は、より組織的に実行し、効果を期待したい。

(2) 時代に対応した教育の推進

- ・ 10年以上実施している「はばたき」「少年の翼」事業は見直しの時期と考える。実施する場合でも、児童生徒を対象とした交流事業や派遣事業が他部局、総合支所所管でも実施されている現状は、大局的にも見直しの時期であり、旧来の行政地区を越えて学校統合が進む中「オール酒田」での実施や民間事業の活用も視野にいれて検討すべき。
- ・ 海外派遣事業については、類似事業を含めて、合計予算額を確保しながらもより整合性があり充実した内容となるよう調整・検討してほしい。
- ・ 携帯電話等（情報端末等）の活用については、児童生徒に対して指導を徹底していく必要を感じる。現代では情報活用能力だけでなく情報モラルが重要なので、単元を設けるなどして情報モラル教育を徹底するとよいのではないか。
- ・ 「ものづくり」事業は内容を勘案しての整理統合は妥当である。

(3) 読書活動の推進

- ・ 長年の重点事業である「読書活動の推進」事業は学校図書館の環境の充実と図書専門員の配置、研修により学校図書館のさらなる活性化に期待したい。

(4) 特別な教育ニーズへの支援

- ・ ADHD、LD、広汎性発達障がいなど個別の指導を必要とする児童生徒の数は増加しており、学習支援員の適切な配置を強く希望する。また、県立酒田特別支援学校の協力を得ての研修会等を通じた支援体制の一層の推進を強く希望する。
- ・ 訪問した学校現場では、いずれも特別支援教育のニーズが高まっていることが指摘された。それらの課題に対応するために、これまで以上に学習支援員・学習サポーターの増員を図る必要がある。

(5) 幼保、小、中、高の連携

- ・ 幼小中の連携は進んでいるので、今後は中高、さらには高大の連携のあり方（どのような連携ができるか、また望ましいか）を検討する必要がある。

2. 豊かな心と健やかな体の育成について

(1) 生徒指導等の充実

- ・ 「公益の心」の涵養のための教材開発や体験活動の工夫をするのであれば、既に実績のある高校や東北公益文科大学と連携して行ってはどうか。

(2) 体験活動、交流活動の推進

- ・ 交流活動事業、体験学習活動事業は教育委員会の事業と他の部署で実施している事業との重複を含めて見直し、検討すべきと感じる。
- ・ 沖縄との交流事業はたいへん重要な事業であるが、類似事業があるのであれば、合計予算額を確保しながらもより整合性があり充実した内容となるよう調整・検討した方がよいのではないか。
- ・ 「さかたっ子・チャレンジ冒険団」のような直営事業は、現場の情報を得る目的のために必要であればよいが、そうでなければ行う必要はないのではないか（全て民間実施でよいのではないか）。社会教育課は、地域で様々行われている事業の調整や方向性の提示に専念するとよいのではないか。

(3) 相談支援体制の充実

- ・ 中学校の不登校生徒の割合を低くするため、具体的な検討・取組みが必要である
- ・ (1)及び(3)を通して、小学校、中学校とも「不登校児童生徒」が増加傾向にあり残念である。各校の経営の重点に児童生徒の自尊感情と所属感を高め、「公益の心」の涵養のための活動に工夫を凝らし指導、実施していることは評価できる。特に「いじめ」は「命」にかかわる場合もある。「いじめ」「不登校児童生徒」は教育相談を学校内外でできることを関係者のみならず、広く市民に周知すべき。教育相談員、スクールカウンセラー、家庭訪問相談員の相談支援体制は児童生徒や保護者の心に届くよう、より一層の指導の充実に期待する。

(5) 健康教育の推進

- ・ 効果を測る具体的な指標が設定されるとさらに望ましい。
- ・ 児童生徒の「自己の健康課題」は年間指導計画で行っているようだが、機会あるごとに繰り返し繰り返し保健学習を通して実施し、さらに家庭、保護者も含めての学習会の開催により、児童生徒の生活リズムの確立と心身の健康保持をより一層目指してほしい。
- ・ 「早寝早起き朝ご飯」は児童にとって分かりやすい標語である。

(6) 食育の推進

- ・ 中学校給食について、栄養面や味付面で問題はないが、おかずの量と種類が育ち盛

りの中学生の欲求を満たしているのか心配である。限られた予算の範囲内でたいへん困難なことだとは思いますが、おおよその量と種類を再検討してほしい。

- ・ 児童生徒のみならず家庭、保護者も含めての学習会には食育との関係も含めた内容として、家庭でも共通な意識を持っていただくことも大事。さらに進めてほしい。
- ・ 地元産食材の活用はとても大事であり、さらに進めてほしい。近年の天候不順で課題は多いと思うが、生産者団体との情報交換をより密にして実施していただきたい。酒田の郷土料理を伝えるための「酒田産給食」はこの地方の食文化にも、故里の味としても、大事な役割を給食で実施していることはとても評価したい（酒田まつりの祭料理、大黒さんのはたはた、冬の納豆汁やお正月料理（雑煮もちも場所が違う）、寒鱈、だだちゃまめ、地元産果物の豊富さ等）

(7) 安全教育、安全対策の推進

- ・ 命を守る安全教育の推進は「いざの時に主体的に対応行動できる」が大事である。「災害安全」は東日本大震災以降関心が高くなっている。学校、家庭、地域の連携が大事。「生活安全」「交通安全」では日常生活におけるけがや交通事故などが多くなっている。子どもの運動遊びを通しても「自分の身は自分で守れる」基礎的な運動能力の向上も大事である。
- ・ 「見守り隊」は学校毎に素晴らしい活動を行っているし、常に新しい課題にも積極的に取り組み、子どもたちの安全、安心につながった活動となっている。今後も学校、家庭、PTA、地域、警察の連携を深めての活動を期待したい。

3. 家庭、学校、地域との連携について

- ・ とても大事な施策であり大いに評価をしたい。地域に伝わる伝統芸能、文化を体験し、あわせて後継者の育成が図られる。地域人材交流事業は家庭、学校、地域との連携が図られるだけでなく、地域の先生は教える喜びと生きがいを見出す。素晴らしい事業と思う。ただし、実施されている内容については教育委員会の各課の連携をより必要としているものと他の部署で実施している活動と重複している事業もあり、教育委員会所管でやるべき内容か、他の部署に移行する内容か、再検討、再構築も含めて抜本的な見直しが必要と思う。
- ・ （社会教育課全般 6. 生涯学習の充実の項含む）昨年度の評価を受けて社会教育課全体を見据えた改善のための具体的行動がとられていることに、深く敬意を表す。具体的には、市内で実施されている子ども向け社会教育事業をリストアップし市役所内外の連絡調整を図ろうとしていること、また関係団体に実際に足を運び現状を理解しながら連絡調整に努めていることなどである。社会教育課は今後ともぜひこの方向性で業務の再点検を進めてほしい。そうすれば、社会教育課の役割が再確認・明確化され、社会教育の有効性も格段に上がると思う。

4. 教育環境の整備について

(1) 学校施設の整備

- ・ 学校施設の耐震化については、数値目標の達成も見込めるほど推進していることは大いに評価したい。児童生徒の安全確保と災害時の地域の避難所の役割も担う学校施設の耐震化の推進をさらに迅速にお願いしたい。耐震化の工事期間は児童生徒の授業への支障は最低限度に押さえる努力と配慮をお願いするとともに地域住民の理解を得るように配慮をお願いしたい。

(2) 学校規模の適正化の推進

- ・ 学校の適正規模適正配置は児童生徒の教育環境の整備を第一義の目的とするが、学校統合は地域に根ざした活動拠点の整理統合、廃止と表裏一体であるので、地域住民とは事前に話し合いを適宜適切に行い、慎重に大胆に、かつ、丁寧に進めてほしい。

(3) 通学の安全確保

- ・ 通学の安全確保は市の全面的な支援と地域学校安全指導員、見守り隊、警察、地域、学校の密な連携をより深めて実行されていることは大いに評価したい。
- ・ 遠距離通学対策は学校統合により今後とも大事で重要な課題である。
- ・ 冬期間のバス対応とスクールバス運行については、基準に照らしての対応は基本であるが、よりきめ細やかな配慮を要する場合など実態を十分把握の上、円滑に運行すべく努力も願いたい。スクールバスは特に安全運行と定時運行に不断の努力指導をお願いしたい。

(4) 学習バスの運行

- ・ スクールバスと学習バスの運行事業についての利用は増加傾向とあるが、児童生徒の学習活動のエリアが広域化した（酒田市が合併により広域になった）のだから、バスの利活用は必然である。今後とも増加する市保有のスクールバス、学習バスは、児童生徒の学習や学校活動での必要な事項に大いに利活用すべきである。
- ・ スクールバスの空き時間を学習バスに充てるなど、バスの有効利用をさらに検討してはどうか。
- ・ 遠距離通学対策は学校統合により今後とも大事で重要な課題である。

(6) 教育の機会均等 及び (7) 私立学校等の振興

- ・ 「事業の効果」の項で詳細な分析が行われていることは評価される。

5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進について

(1) 教職員研修等の充実

- ・ 教職員の研修会の内容は広範囲にわたり行われており教職員の指導力向上と資質の向上に寄与している。研修内容は担当する学科科目等の指導に重きがあると思う。大事なことなので継続していただきたい。もう一つ、教職員の倫理観、道徳やモラル等の指導も大事と思う。教職員としての規範意識と、社会的責任のある立場にあること

の確認を繰り返して周知徹底を図り、「体罰」や先生の言動による「いじめ」、交通規則に反した行為、倫理観の欠如と思われる行為等には厳に対処する姿勢の徹底を平時に研修を通じて体得するよう研修セミナーの開催もありと思う。

(3) 特色ある学校づくりの推進

- ・ 各校が校長の裁量により使用できる予算は必要である。その意味で「明るく楽しい元気な学校づくり支援事業」と名称変更したことは適切であったと思う。

(4) 学校施設の地域開放の推進

- ・ 学校施設の地域開放の推進は十分に実施され、地域と学校の関わる機会提供にも大いに役割を果たしている。今後も継続をお願いしたい。今まで地域の核として大いに利活用してきた学校の施設が学校統合により廃校された場合にも、地域の状況、実情をよく聞き、暫くの期間は便宜を図る対応を考慮すべきと思う。

6. 生涯学習の充実について

(1) 生涯学習推進体制の充実

- ・ 文化センターについて安全な施設管理を行うための耐震補強工事を行う必要性があるとの指摘があるが、施設利用者も長期計画でのプランに基づく利活用が進んでいるのが現状。同時に世代を問わずに多くの市民が利用している。工事期間の支障はあるものの、利用者への支障は最小限に抑える努力、配慮をお願いしたい。

(5) 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携

- ・ 生涯学習の事業も社会教育課の範疇と「まちづくり」(コミセン)との垣根がよく分かりにくい。また、児童生徒との関連もあり「学校教育」と同時に「子育て支援」との関わりも含め、全体の見直しを図る必要を感じた。

7. 図書館活動の充実について

(1) 図書館機能の充実

- ・ 教育振興基本計画には「市民の利用が増加している中、物理的な施設面積に限界があり…」とある。施設についての検討をすすめることも年度目標を明白にして対応すべきと思う。図書館と文化センターは、けた違いに多くの人が利活用している施設であることから慎重に、かつ、迅速に大胆に検討を重ねることが急務と思う。
- ・ 酒田市役所が作成・公表している各種行政資料(総合計画をはじめとする各種計画など)も収集・配架していただくと、児童生徒の調べ学習、社会人教育、さらには情報公開の観点から有効である。

(2) 光丘文庫の保全と活用

- ・ 光丘文庫の保存は文庫の所蔵する古文書や寄贈された典籍、図書などの整理保存と建造物の保存を切り離して検討すべきと思う。歴史的な建造物としてとても大事であるので、市民がもっと目に触れやすい場所への移設も検討され、酒田市として誇れる

文化財としての活用も考えられる。

(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）

- ・ 「酒田市子ども読書活動推進計画」に基づき実施されている各種事業が順調・好評であるように見受けられる。今後とも継続されたい。

10. 歴史・文化遺産の保存と活用について

- ・ （全般について）有形、無形の文化財の保存活用と地域に根ざした民族芸能と伝統文化の保護継承は今後とも継続して行う必要がある。施設入館者も前年度より増加しているが、なお一層、企画展示等の市民へのPR、周知に努力されたい。収蔵品の展示、公開方法も工夫を凝らしてほしい。時代背景や歴史的流れも勘案し、この土地に伝わる「生活用具」「農、漁、林、商、工、に使用された用具」の収蔵の展示公開も一同にできればと希望する。例えば、企画展示としての公開や常設館として廃校舎や敷地の利活用等。いずれにしても歴史、文化遺産の保存と活用は大変大事である。

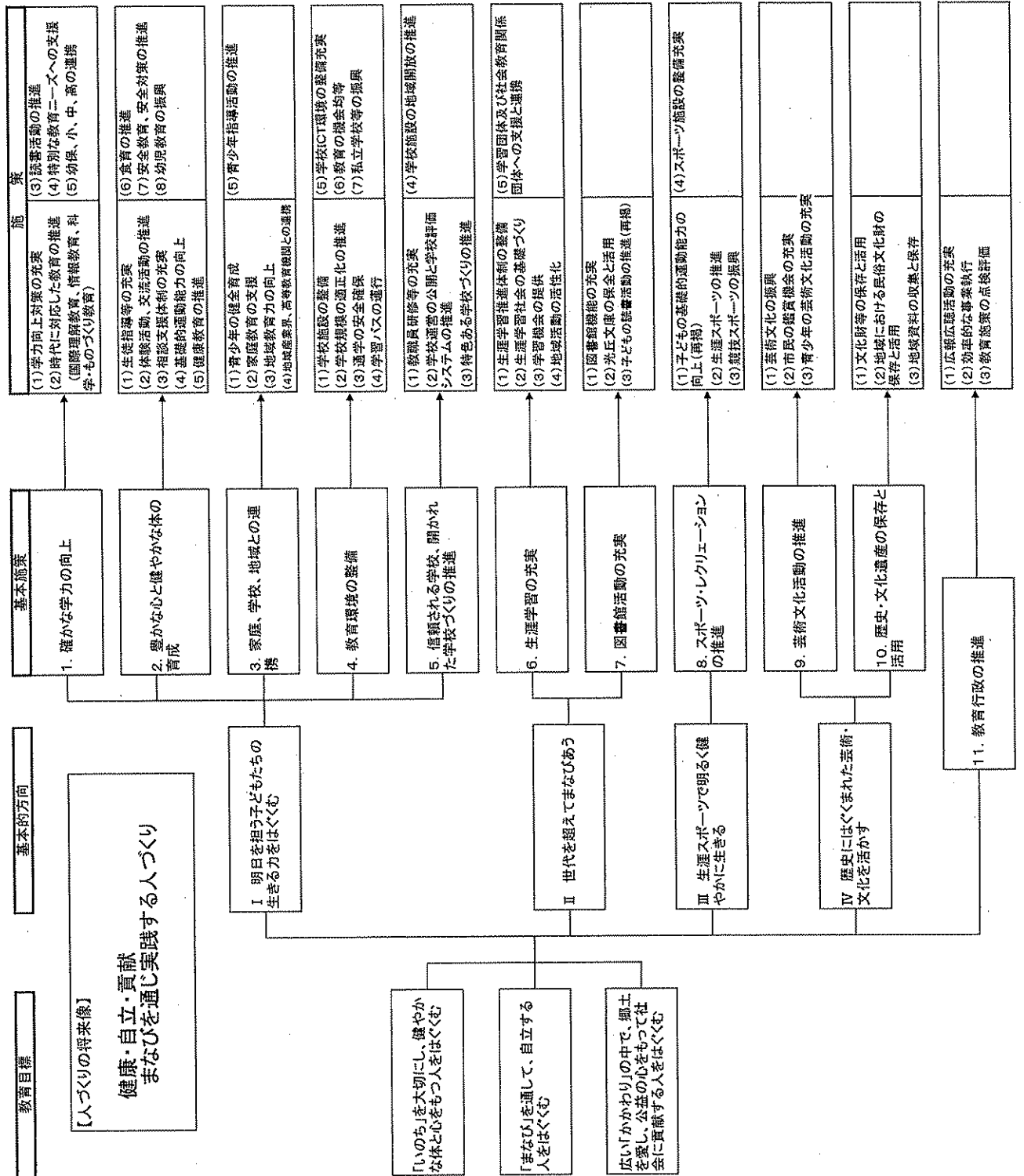
(1) 文化財等の保存と活用

- ・ 教育振興基本計画にあるように「埋蔵文化財に精通した専門職員を継続的に養成」することを、具体的に検討してほしい。

(3) 地域資料の収集と保存

- ・ 資料館と文化伝承館の入館者数が伸びたことは努力の成果であろう。今後は阿部記念館のあり方について検討を進める必要がある。

酒田市教育振興基本計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	1. 確かな学力の向上	
施策	(1) 学力向上対策の充実	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に対応した授業等の改善、少人数指導等による指導法の改善を通し、小中9年間を見通したまなびを推進することで、「生きる力」を支える「確かな学力」の育成を目指す。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問指導を通し、学習指導要領の趣旨を各教員に伝えるとともに、「確かな学力」を育成するための授業改善につなげる。 ・小学校4年生から中学校3年生全員を対象に学力検査を実施し、児童生徒の学力の傾向を分析するとともに、各校での指導に生かす。 	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で実施した46回の授業研究会に延べ167名の指導主事を派遣し授業改善に向けた指導・助言を行った。 <p>○学力向上対策事業【予算現額9,905千円】【決算額9,718千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生から中学校3年生までの全児童生徒を対象に学力検査を実施し、その結果をもとに小中校長会の検討委員会で調査分析し調査報告書を作成した。 ・小中スクラム事業を国語、算数・数学、英語・外国語活動で展開し、小中のつながりを意識した授業改善の研究会及び研修会を実施した。 <p>○教育研究所運営事業【予算現額956千円】【決算額668千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域毎の研究部で授業研究会や研修会を延べ96回実施した。 	
事業の効果	<p>○つけたい力を明確にした授業展開、一人一人の学習状況を適切に評価し指導に生かす授業が多く見られるようになってきた。</p> <p>○学力検査の分析により各校、各クラス、各教科の学習状況の把握が進み、課題に応じた指導方法の改善につなげることができた。また、小中スクラム事業の実施により、各教科における小中それぞれの指導事項の確認と系統性等を把握することができた。</p> <p>○市教研各研究部が、児童生徒の実態をもとに課題を設定し、外部講師を招聘しての研修会を開催することで、学習指導要領の趣旨に沿った授業改善が図られた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	<p>○教科の特質に応じた言語活動の設定が効果的に行われていないので、指導計画に位置付け、授業の構成や進め方を工夫していくよう、要請訪問等を通して各校に指導していく。</p> <p>○学力検査の分析から、算数・数学における思考力や判断力を問う問題の正答率が低いので、文部科学省から教科調査官を招聘しての授業研究会及び研修会を実施し、効果的な指導の在り方についての教員研修を充実する。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	(2) 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)
担当部署	学校教育課・管理課
施策の目的及び目標 ○目的 ・時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。 ○目標 ・ALTを効果的に活用することで、英語を使つてのコミュニケーション能力を高めることができるようにするとともに、中学生海外派遣事業「はばたき」を通して、国際感覚の基礎を身につけられるようにする。 ・情報教育担当者会での研修を通して教員の指導力を高め、児童生徒の情報モラル及び情報活用能力の向上を図る。 ・理科センター各事業及び中村ものづくり事業の活動を通し、身近な現象を科学的に解き明かす力の育成やものづくりの楽しさを感じさせるようにする。	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況 ○外国人英語講師招致事業【予算現額18,812千円】【決算額17,284千円】 ・中学校では、外国語時間数増に対応してALTとのTT授業増を可能にし、小学校外国語活動の対応として、小学校5、6年生全クラスでALTとのTTを12時間実施した。 ○中学生海外派遣事業「はばたき」【予算現額5,800千円】【決算額5,644千円】 ・23名の中学生(男子9名、女子14名)をオハイオ州とニューヨークに派遣した。5泊6日のホームステイでは、団員が一人ずつ、受け入れ家庭に宿泊し、国際交流を図った。 ○情報活用能力の育成 ・情報教育担当者会において、情報モラル及び情報活用能力の育成を図る指導の在り方を研修し、各校の指導に役立てるようにした。 ○中村ものづくり事業【予算現額2,030千円】【決算額2,029千円】 ・おもしろ科学ものづくり塾(年間8回開催、塾生35名)、ものづくり科学教室(4領域104名)、創意ものづくり教室(2領域107名)、ものづくり出前授業(延べ20校492名)を実施した。	
事業の効果 ○小学校へのALT派遣時数を昨年度の9時間から12時間に増加させることにより、英語を使つてのコミュニケーションを図る機会を増やすことができ、児童に外国語を学ぶ楽しさを実感させることができた。 ○「はばたき」学習会において、ALTによる日常生活で使える英語の学習をしたことによりホームステイ先での英語を使つたコミュニケーションに生かすことができた。 ○情報モラルを行動として身に付けられるような指導を進めることができた。 ○ものづくりの基礎的な力と創意工夫する力を高めるために、「創意ものづくり教室」を実施し、親子一緒にものづくりをする機会を提供することができた。	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	B ○児童生徒が外国語を学ぶ楽しさを実感できているが、指導に不安を感じている小学校教員のために、外国語活動研修会を継続していく。 ○携帯電話等を介してのトラブルが多くなっていることから、児童生徒に対しての情報モラルを指導していく必要がある。 ○ものづくり事業については、「創意ものづくり教室」の立ち上げで対象学年を広げることができたが、似たような名称の講座が多くなり混乱も認められたので、ネーミングや内容についての整理統合を図る。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																														
基本施策	1. 確かな学力の向上																														
施策	(3) 読書活動の推進																														
担当部署	学校教育課・図書館																														
施策の目的及び目標	<p>○目的 ・読書活動を充実させるため、本との多様な出会いを工夫するとともに、読書に親しめる環境の充実を目指す。</p> <p>○目標</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校図書室貸出冊数</td> <td>小</td> <td>7.0冊</td> <td>7.4冊</td> <td>7.3冊</td> <td>8.3冊</td> <td>7.5冊</td> <td>8.0冊</td> </tr> <tr> <td>(1人当たり月平均)</td> <td>中</td> <td>0.6冊</td> <td>0.5冊</td> <td>0.4冊</td> <td>0.6冊</td> <td>1.5冊</td> <td>2.0冊</td> </tr> </tbody> </table>									H21	H22	H23	H24	H26	H31	学校図書室貸出冊数	小	7.0冊	7.4冊	7.3冊	8.3冊	7.5冊	8.0冊	(1人当たり月平均)	中	0.6冊	0.5冊	0.4冊	0.6冊	1.5冊	2.0冊
		H21	H22	H23	H24	H26	H31																								
学校図書室貸出冊数	小	7.0冊	7.4冊	7.3冊	8.3冊	7.5冊	8.0冊																								
(1人当たり月平均)	中	0.6冊	0.5冊	0.4冊	0.6冊	1.5冊	2.0冊																								
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○各小中学校への図書専門員の配置 ・32名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書の環境整備を行った。</p> <p>○図書購入費の各小中学校への配当 ・小学校16,756千円、中学校13,086千円の図書を購入した。</p> <p>○図書館教育研修会の実施 ・図書管理システム(りいぶる)の運用方法や活用方法についての実践的な実技研修を行った。</p> <p>○読書指導研修会の実施 ・文部科学省教科調査官を招聘し、「本が大好きな子どもを育てる読書活動の推進と授業改善」というテーマのもと、授業研究会及び講演会を行った。</p>																														
事業の効果	<p>○図書管理システムの活用について図書専門員からも一緒に研修してもらうことで、蔵書管理の効率化が進み、子ども達が活用しやすい学校図書館環境の整備が進んだ。</p> <p>○学校図書館の標準冊数充足率が、市全体として小学校が、107.3%、中学校が101.6%となっている。</p> <p>○図書館教育研修会の実践的な研修により、図書専門員の図書館業務に対する使命感と責任感を高めることができた。</p> <p>○読書指導研修会の実施により、魅力ある図書館づくりと貸し出し業務の効率化を進めることができ、児童生徒の貸出冊数の増加につながった。また、教科学習の中でも図書館を活用する機会が増え、「学習センター」としての機能の充実が図られつつある。</p>																														
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>評価</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>○図書専門員の配置及び図書購入費の各小中学校への配当により、学校図書館の環境充実が図られつつある。今後も標準冊数充足率を保つよう配当を継続していく。</p> <p>○貸出冊数が増加したものの、多様な分野への広がりには至っていない。今後「酒田市子ども読書活動推進計画」にある取組みを通して、読書の幅や楽しさを広げるようにしていく。</p> <p>○図書館リフレッシュ事業を25年度より「図書館リスタート事業」と名称を変え、〈リフレッシュセンター〉〈読書センター〉〈学習・情報センター〉として、学校図書館を3つの機能から活性化させていくよう各校に指導していく。</p>																														

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	1. 確かな学力の向上	
施策	(4) 特別な教育ニーズへの支援	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADHD（注意欠陥多動性障がい）・LD（学習障がい）・広汎性発達障がいなど、個別の支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難であったり、長期入院のため学習の遅れが心配される児童生徒に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員等の適正な配置により、個別の支援を必要とする児童生徒へ対応し、一人一人の教育的なニーズに沿った指導・支援を行う。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援にかかわる相談活動や連絡調整が組織的に行われるようにする。 ・日本語指導講師の派遣により、日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒が、学校での生活に早期に適応できるようにする。 	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○学習適応支援体制推進事業</p> <p>【予算現額46,511千円＋緊急雇用11,246千円】【決算額45,658千円＋緊急雇用11,246千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任の補助を担当する学習支援員35名及び緊急雇用による学習サポーター10名を、小学校25校、中学校7校に配置した。1日6時間、年間200日勤務。年間4回の研修会・情報交換会を実施した。 <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算現額4,587千円】【決算額4,474千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の特別支援教育コーディネーター（教員が担当）を主な対象とし、児童生徒一人一人の障がいに応じた具体的手立ての研修会を2回実施した。 ・保護者研修会（ペアレントトレーニング）の開催（5回×2グループ）、2名の特別支援教育巡回相談員による巡回指導（25校延べ239回）を実施した。（H23は延べ261回） <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算現額1,246千円】【決算額944千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導講師の派遣194回、長期入院児童生徒への学習アドバイザー派遣78回。 	
事業の効果	<p>○学習支援員が、配置のねらいに沿って機能しており、年4回の研修会及び情報交換会を通して、特別な支援を要する児童生徒への適切な対応ができるようになってきた。</p> <p>○特別支援教育研修会の実施により、発達障がいのことだけでなく、広く学級経営に根差した研修を深めることができた。また、巡回相談員による巡回指導を通して、支援を必要とする児童生徒の実態把握と組織的な支援体制ができてきた。</p> <p>○個に応じた日本語指導や長期入院への対応を行うことにより、児童生徒が学校での生活に適応することに大いに役立っている。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	<p>○学習支援員の配置希望が、多くの学校から出されており、個別の支援を要する児童の数も488名である。今後も対象児童生徒の状況を細やかに把握するとともに、学習支援員を適切に配置していく。</p> <p>○酒田特別支援学校の協力により、特別支援教育についての研修が深まり、各校においても組織的な支援体制が整いつつある。今後、福祉課発達支援室との連携も強化し、幼児期から中学生までを通じた支援をより一層推進していく。</p> <p>○昨年度よりも、日本語指導や長期入院でアドバイザーを必要とする児童生徒の数が増加した。今後もより円滑な適応を目指した支援をしていく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	(5) 幼保、小、中、高の連携
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校が連携を図り、育ち・学びのつながりを重視した児童・生徒への支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校が連携し、保育や指導についての相互理解を深め、学びの連続性を考慮した指導に生かす。 ・小学校と中学校が連携し、各中学校区をまとまりとした教職員の相互研修会を実施することで、9年間を通したまなびのつながりを重視した指導に生かす。 ・中学校と高等学校が連携し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を推進する。 	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○酒田市幼児教育振興計画最終年度の総括として、幼児教育の重点施策について成果と課題を調査した。また、「酒田っ子すくすく育成会議」の場でアドバイザーの東北公益文科大学の國眼先生より今後の方向性について助言をいただいた。</p> <p>○幼保小指導者相互職場体験研修（子育て支援課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所・小学校の指導者・保育者が、保育や指導の現場での実習を行った。 <p>○幼保小指導者研修会（子育て支援課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所・小学校の指導者・保育者が互いの保育や指導の在り方を話し合い、相互理解する研修となった。 <p>○今後の酒田市幼児教育の推進のために、指導資料を作成した。</p> <p>○小中スクラム事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のつながりを意識した国語、算数・数学、外国語の授業改善に向けた実践的な研修会を実施した。 <p>○中学校・高等学校の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の進路学習の一環として、1年生から高校の体験入学等を実施している学校が数校ある。 	
事業の効果	
<p>○酒田市幼児教育振興計画最終年度として、各幼稚園・保育園・小学校にアンケートを取り、幼保小連携の成果と課題を明らかにすることができ、今後の方向性について話し合うことができた。</p> <p>○幼保小指導者相互職場体験研修の実施を通して、子どもの発達段階を理解し、指導や保育に係る課題を共有化し、日常の実践につなげることができた。</p> <p>○幼保小指導者研修会では、幼稚園・保育所・小学校の先生方がグループ討議を行うことで互いの指導観・保育観を確認することができた。また、國眼先生から子どもの見取り方のアドバイスを受け、実りある研修となった。</p> <p>○小中スクラム事業では、国語科において小中合同の事前研修会や指導案検討会を行うことにより指導事項の確認や系統性等、小中のつながりを中心に研修を深めることができた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <p>○相互職場体験、幼保小指導者研修会を通して、保育や指導についての相互理解を図ることができた。今後、「幼保小連携スタートプログラム」を基本とする幼保小の連携を更に推進していく。</p> <p>○学びのつながりを意識する点において、小中スクラム事業は成果があった。来年度は、本市において課題である算数・数学に特化し、小中のつながりだけでなく授業力の向上も目指して実施していく。</p> <p>○中高が連携した体系的な教科指導の在り方の研修として、「山形の未来をリードする人材育成事業 中高教員相互派遣研修」を酒田一中、酒田三中与酒田東高校を会場に実施していく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(1) 生徒指導等の充実
担当部署	学校教育課・管理課
施策の目的及び目標 ○目的 ・響き合うあたたかな心をはぐくむような、生徒指導の充実を図る。 ○目標 ・学校教育指導（経営訪問、計画訪問、要請訪問）等を通して、心が通い合い、高め合う集団づくり、道徳教育の充実と「公益の心」の涵養を図る。	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況 ○学校教育指導 ・学校教育の重点に沿った各校の経営の重点及び指導の重点を立案する際に、児童生徒の自尊感情や所属感を高める指導、「公益の心」の涵養のための教材開発や体験活動の工夫、授業や学校生活の場面で生徒指導の三機能を生かした指導等について、各校の状況に合わせて盛り込むように指導した。 ○心が通い合い高め合う集団づくり ・生徒会連絡協議会、中学生と教育長が語る会を実施した。 ○道徳教育の充実と「公益の心」の涵養 ・要請訪問を通して、心に響く資料の活用や体験を生かし自己の生き方について考えを深める指導の在り方を助言した。	
事業の効果 ○授業や学校生活の各場面において、生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を生かした指導が多くの学校で見られるようになっていく。 ○積極的な生徒指導が行われるとともに児童生徒の主体的な活動が展開されてきた。 ○心に響く道徳教材の開発が進められるとともに、児童生徒のボランティア活動等、各校の状況において工夫が見られるようになった。	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	B ○自尊感情を高めたり、心が通い合い高め合う集団づくりが行われている学校が多くなってきたが、友達と上手にコミュニケーションを図ることができず、不登校傾向になったり、反社会的な行動をしてしまう児童生徒もおり、人間関係づくりが課題である。今後、人間関係を豊かにする自己表現力やコミュニケーション能力を育む教育活動を目指し、要請訪問や研修会において指導していく。 ○生徒会連絡協議会や教育長と語る会を通して、学校のリーダーとして主体的な活動を行う気持ちを育てることができた。今後、生徒自らが自分達の力で自分達の学校を更に良くするための具体的な手立てを考えさせ、実行できるよう指導していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	(2) 体験活動、交流活動の推進				
担当部署	学校教育課				
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに、自主性や協調性を養い、生きる力を育む。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や交流活動を通し、人や自然とのかかわりの中で思いやりの心や自然の営みへの感謝の心の育成を図る。 				
		H23	H24	H26	H31
交流活動参加児童の満足度	飛島いきいき体験スクール	98%	98%	95%以上	95%以上
	自然体験学習		93%	95%以上	95%以上
	少年の翼	100%	100%	95%以上	95%以上
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○飛島いきいき体験スクール支援事業【予算現額2,903千円】【決算額2,445千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9小学校、児童447名参加 (H23:4校221名、H22:12校582名、H21:10校615名) ・飛島小・中学校を活動拠点とし、2泊3日で野外観察やイカ釣り等の体験学習及び飛島小学校児童との交流を実施した。 <p>○自然体験学習推進事業【予算現額5,013千円】【決算額4,925千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4小学校、児童213名参加 ・鳥海高原家族旅行村を基点とし、トレッキングや登山等自然環境を利用した体験活動やエコバッグや鳥海山制作等のクラフト活動を実施した。 <p>○少年の翼交流事業【予算現額3,507千円】【決算額3,205千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄訪問：12月16日(日)～20日(木) 小学5年生19名、小学6年生17名、受入：兼次小学校 ・受け入れ：2月6日(水)～9日(土) 今帰仁村 小学6年生36名、交流担当校：泉小学校 				
事業の効果	<p>○飛島ならではの自然・歴史・文化等について島民と触れ合いながら学ぶことにより、飛島の良さを肌で感じるとともに、人とのかかわりや友達の大切さを実感することができた。</p> <p>○鳥海山という本市の大自然を利用した体験活動を通して、自然に触れることの素晴らしさやふるさとの良さを再認識することができた。また、友達と協力しながらの活動とともに、ボランティアの皆さんとの関わりの良さを学ぶことができた。</p> <p>○少年の翼では、さとうきび収穫や紅型染体験等を通し、日本国内の異なった地域の文化や自然について理解を深めることができた。また、ひめゆりの塔の見学や摩文仁の丘の見学を通して、平和の大切さを感じることもできた。さらに、沖縄からの派遣団を受け入れることで、酒田の良さに触れてもらうこともできている。</p>				
点検結果・自己評価 (課題・方向性)					
評価	A	<p>○飛島が持つ本市固有の学習フィールドとしての価値は素晴らしいものである。今後も、飛島小・中学校と連携を図りながら有意義な活動となるようにしていく。</p> <p>○市内の小学生が生まれ育った酒田の自然を体験し、自然の雄大に触れることができている。今後も体験プログラムの見直しを図り、更に充実した活動にしていく。</p> <p>○少年の翼については、満足度に限らず、事業のねらいに沿った振り返りとなるよう検討していく。</p>			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(2) 体験活動、交流活動の推進
担当部署	社会教育課
事業の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を超えた異年齢の子どもたちの協同した体験活動を通して、心豊かな人間性と自立心を育み、仲間づくりとリーダーの育成を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業に参加した子どもたちが、自主性と協調性が養われ、それぞれの学校、地域、家庭において積極的に物事に取り組んでいける子どもを育む。 	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	※予算現額及び決算額は40ページに含まれる
<p>○「さかたっ子・チャレンジ冒険団」(生涯学習推進講座開催事業)</p> <p>実施回数/3回、延べ参加人数/48人、対象/春・夏小学校4～6年生児童、冬小学校1～6年生児童</p> <p>募集方法/①カモンくんこどもニュースに掲載し全児童に配布、②広報、ホームページへ掲載、③学童保育、交流広場等の関係施設へのチラシ配布依頼</p> <p>①春：6月16日(松山地区) 自然にある材料を使ったクラフト制作、眺海の森周辺の自然観察【参加人数 9人/申込み者9人】</p> <p>②夏：8月2日(城輪柵跡・八幡地区) 夏休み宿泊体験：城輪柵跡での古代火起こし体験(市花火大会の種火の採火)、数河の池での釣り体験、鳥海高原家族旅行村での野外炊飯、星空観察、ロッジでの宿泊体験、高原コースでのグラウンドゴルフ体験【参加人数 17人/申込み者17人】</p> <p>③冬：2月16日(八幡地区) 雪と遊ぼう、玉簾の滝まで雪中ウォーキング、そり遊び、雪玉合戦、雪中カルタ、宝さがし。【参加人数22人/申込み者数23人】</p>	
事業の効果	
<p>○普段できない自然体験を通して五感を磨き、酒田の自然と歴史、文化への理解を深めることができた。</p> <p>○参加者アンケートによる満足度は、1回目100%、2回目85%、3回目83%と好評であった。</p> <p>○参加者が、学校の枠を超えて異年齢交流と自然体験が促進された。</p> <p>○冬の雪遊びでは、参加対象を1年生まで広げたことから、高学年のリーダーシップを育むことができた。</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	<p>C</p> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画内容により、参加人数にばらつきがあるため、子ども達が参加したいと思うような内容について調査検討が必要である。 ・参加対象を1年生から6年生まで広げたことから、広い年齢に対応した事業内容の検討が必要である。 <p>○方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が継続した交流と活動ができるよう募集方法や事業内容を検討する。 ・市内の自然資源の活用と地域の個人や団体と連携し、より魅力のある、より効果のある事業の企画を行う。 ・安全対策マニュアルに基づき、安全面の徹底を図る。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成						
施策	(3) 相談支援体制の充実						
担当部署	学校教育課						
施策の目的及び目標							
○目的 ・いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。							
○目標							
			H22	H23	H24	H26	H31
不登校児童生徒の割合	小	0.15%	0.17%	0.19%	0.1%未満	0.1%未満	
	中	1.53%	1.96%	2.26%	1.6%未満	1.3%未満	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況							
○教育相談充実事業【予算現額7,837千円】【決算額7,270千円】 ・教育相談室での来室・電話相談の実施（平成24年度276件（新規94件）、平成23年度 273件（新規86件）平成22年度 252件（新規74件）、平成21年度 249件（新規88件））、不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。 ・教育相談研修講座を4回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施した。							
○適応指導教室（ふれあい教室）維持事業【予算現額941千円】【決算額758千円】 ・不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指すような支援を行った。（小学生3名、中学生13名通級）							
○スクールカウンセラー等活用事業【予算現額9,942千円】【決算額9,729千円】 ・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー（SC）6名と教育相談員8名を各中学校に配置するとともに、3名の家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。							
事業の効果							
○ケースに応じた学校との連携を適切に行うことができ、初期対応として効果的であった。 ○本市の教育相談課題に対応した各種研修会を実施することで、教員の日々の指導に生かしてもらうことができた。 ○適応指導教室（ふれあい教室）での体験活動を通じ、他の通級生や体験活動の講師の先生方と安心して関わるができるようになり、自信を取り戻せた例も多くある。不定期ではあるものの、10名の児童生徒が学校に登校できている。 ○SCや相談員の校内教育相談体制における位置づけが明確になり、小学校を含め増加傾向にある相談件数に対応して、児童生徒の状況に応じた相談活動が行われている。							
点検結果・自己評価（課題・方向性）							
評価	B	<p>○中学校における不登校が、増加傾向にある。そのきっかけの多くは、本人に関わる問題、友達関係をめぐる問題が多く、人間関係づくりが課題として上げられる。今後、事例をもとにした研修会を多く開催することで教職員の迅速な対応及び支援につなげ、不登校の未然防止に努めていく。</p> <p>○発達障がいに関わる内容の研修会を多く設定し効果を上げている反面、中学校の教員の参加が少ないことが課題である。多くの教員からより専門的な知識を研修してもらい生徒の指導につなげるため、研修講座の重要性をもっと啓発していく。</p> <p>○来年度は、SCの配置時数が週1時間程度増加することから、特別支援教育の視点に沿った適切な支援のための相談を一層充実していく。</p>					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																									
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成																									
施策	(4) 基礎的運動能力の向上																									
担当部署	学校教育課																									
施策の目的及び目標																										
○目的																										
・基礎的運動能力向上のための指導内容の充実を図り、児童生徒が、運動の楽しさや喜びを体感しながら、基礎的な知識や技能を身につけることができるようにする。																										
○目標																										
・小学校低学年の「体づくり運動」を中心とした指導内容の充実を図り、基礎的運動能力の向上に向けた取組みを支援する。																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校3年生の50m 走の平均</td> <td>男子</td> <td>10.61秒</td> <td>10.41秒</td> <td>10.54秒</td> <td>10.24秒</td> <td>10.17秒</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>10.29秒</td> <td>10.54秒</td> <td>10.54秒</td> <td>10.49秒</td> <td>10.48秒</td> </tr> </tbody> </table>									H22	H23	H24	H26	H31	小学校3年生の50m 走の平均	男子	10.61秒	10.41秒	10.54秒	10.24秒	10.17秒	女子	10.29秒	10.54秒	10.54秒	10.49秒	10.48秒
		H22	H23	H24	H26	H31																				
小学校3年生の50m 走の平均	男子	10.61秒	10.41秒	10.54秒	10.24秒	10.17秒																				
	女子	10.29秒	10.54秒	10.54秒	10.49秒	10.48秒																				
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況																										
○運動遊びサポーター派遣事業																										
・希望のあった小学校15校に講師を派遣し、1、2年の児童を対象に、年間3回「体づくり運動」に関連する運動を実際に行うとともに、教員に指導内容を周知する。																										
・様々な運動の基礎となる敏捷性や平衡性、巧緻性、協応性等を育てるために、体のバランスをとる運動遊び、用具を操作する運動遊び、力試しの運動遊び等を実施した。																										
○小学校スポーツ振興事業																										
・市内全小学校の参加による陸上競技記録会及び水泳競技記録会を開催した。																										
○万歩計の活用																										
・日常的な運動に対する意識向上をめざし、万歩計を希望する学校に貸し出した。																										
事業の効果																										
○運動遊びサポーター派遣事業を通して、低学年担当教員に、1、2年生で経験させたい「多様な動きをつくる運動遊び例」について、児童への指導も踏まえながら周知を進めることができた。																										
○実施校の中には、実施後の休み時間を活用して全校で活動したり、活動中の動きをヒントにした道具を遊びの中に取り入れたりしている学校もあり、基礎的な運動能力向上につながっている。																										
○陸上競技記録会や水泳競技記録会への参加を通して、記録への挑戦やチャレンジする意欲を高めるとともに、自己記録を目指し大会に向けて努力する気持ちを育成することができた。																										
点検結果・自己評価（課題・方向性）																										
評価	B	○「運動遊びサポーター派遣事業」の実施により、子ども達が楽しみながら運動をすることができた。今後、実施時だけでなく、休み時間などにも取組みを活用し、十分な運動量が実施されるように働きかけていく。 ○50m走の記録が伸びない理由として、陸上競技の専門的な指導力不足が考えられる。今後、「運動遊びサポーター」事業を更に発展させ、陸上の短距離走の向上を目指した事業を検討していく。 ○万歩計の活用については、希望のあった学校の児童への貸し出しだけでなく、親子に貸し出すことで、保護者も一緒になって、日常的な運動への意識を高めていく。																								

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成	
施策	(5) 健康教育の推進	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健やかでたくましい体を育む指導を通して、健康的な生活行動が実践できる態度や能力を身につけるための教育活動を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康課題をとらえ、日常生活での具体的実践に結びつく保健学習の充実を図る。 ・自校の健康課題を家庭、地域の関係機関と共有し、解決のための取組みを推進する。 	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○年間指導計画に基づいた保健学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康の保持増進を目指す実践力の育成のため、年間計画に基づいた保健学習を適切に行うように指導した。 <p>○学校保健委員会の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会等を中心に、児童生徒の健康に関する生活習慣の実態調査等を行い、問題点の洗い出しや改善方策について検討するように指導した。 <p>○酒田飽海児童生徒保健研究発表会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や生徒主体の取組みを発表し、お互いに見合うことで、健康に対する意識を高めることができた。 	
事業の効果	<p>○計画的な保健学習を行うことで、生涯にわたる健康の保持を意識することができた。</p> <p>○学校保健委員会やPTAの活動として、「早寝早起き朝ごはん」等の生活リズムを目的にした取組みが多く学校で行われるようになった。</p> <p>○自校の健康課題についての取組みを児童生徒が主体的にまとめて発表する活動を通して、心身の健康の保持増進を目指す実践力を育てることにつながっている。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	<p>○学校での取組みが広く行われており、日常生活での具体的な実践に結びつくように指導しているが、児童生徒の現状として、自己の課題をとらえて行動することは十分ではない。今後も、学校教育指導（経営訪問、計画訪問）を通して継続的に指導していき、健康教育の推進を図る。</p> <p>○酒田飽海学校保健会による「身体状況並びに学校保健活動状況一覧」を発行することにより、課題を共有し、解決のための取組みを推進する。</p> <p>○児童生徒保健研究発表会の成果や「よい歯の学校」優秀校の素晴らしい取組みを他の学校にも広めていく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	(6) 食育の推進				
担当部署	管理課、学校教育課				
事業の目的及び目標					
○目的 ・児童生徒に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせるとともに、自然の恵みや生産者への感謝の心を育む。					
○目標 ・地元産野菜を積極的に学校給食に取り入れるために、小中学校給食での地元産野菜の利用率の目標を50%以上とする。					
	23年度	24年度	26年度 (目標)	31年度 (目標)	算出方法
小学校	39.4% (36.5%)	38.7% (33.2%)	50%	50%	重量ベースによる 地元産野菜の利用率
中学校	35.7% (31.2%)	28.8% (26.6%)	40%	50%	
※ 数値は県内産の利用率で、() 書きは庄内産の利用率					
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況					
○週5日の米飯学校給食を実施した。(平成21年度から)					
○酒田の郷土料理を伝えるため「酒田産給食」を引き続き実施した。(学期毎1回)					
○栄養教諭等による巡回指導を実施した。(指導回数95回)					
○平成24年度から中学校給食を弁当方式から食缶方式に変更した。					
○毎月「給食だより」を発行し、食材の情報提供を行った。					
○保護者に対し、栄養教諭等が食に関する講話を実施したり、「食育だより」を発行した。					
事業の効果					
○米飯給食、酒田産給食等の実施を通して、酒田らしい給食を提供することができた。					
○栄養教諭等の巡回指導により、食と健康について児童生徒の理解を深めることができた。					
○講演や資料提供により、家庭に対する食の大切さを伝えることができた。					
○中学校給食の方式を変更したことで、温かく、おいしい給食を提供することができた。					
点検結果・自己評価(課題・方向性)					
評価	C	<p>○学校給食については、学びや運動の基礎となる健康づくりや給食ができるまでの社会の仕組みを教えるための生きた教材として活用している。また、学校給食の提供だけではなく、児童生徒への意識付け、家庭での実践も大切なことから、栄養教諭等による子どもたちや保護者に対する食育指導にも取り組んでいる。これらの継続した取り組みが、将来自立した健康管理、食事管理ができる大人となることにつながるものと期待される。</p> <p>○地元産食材の利用については、減少傾向にある。これは、献立を作成する時期と天候不順などによる地元産野菜の生育時期、収穫時期にずれが生じることで、地元産の利用率が減少したものと考えられる。今後は、生産者団体との情報交換などを通して、地元産の利用率向上につなげていきたい。</p>			

基本的方向	1. 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成	
施策	(7) 安全教育、安全対策の推進	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する知識や対応・行動の仕方について、具体的な場面を想定した実践的な指導を推進する。 ・日常的な指導を工夫することにより、児童生徒が安全に関して主体的に判断し行動できる能力を高める。 		
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○「非常災害対策と防止計画」の各学校毎の作成と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時、地震・津波発生時、不審者侵入時等、具体的な場面を想定した訓練の実施を行うよう指導した。 <p>○年間指導計画に基づいた交通安全教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動等の時間において、交通安全教室や安全な登下校についての指導が行われている。 <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに各校の通学路の安全点検を実施した。 <p>○安全な登下校に向けた「見守り隊」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と酒田警察署の共催という形で「子ども見守り隊リーダー研修会」を9月に実施した。 		
事業の効果		
<p>○学校の状況に応じた「非常災害対策と防止計画」が策定され、具体的な場面を想定した訓練等の実施により、自分の命は自分で守る意識が児童生徒達にも芽生えてきている。地域と連携した避難訓練を行う学校も増えてきた。</p> <p>○通学路の安全点検を行い、危険箇所の洗い出しとその対応を行うことができた。</p> <p>○地域の見守り隊との連携が進んだ。交通安全に対する意識向上とともに、地域の防犯意識や抑制機能がはたらか、実際に声かけや不審者に関わるファクスやメールでの注意喚起回数が大幅に減少した。</p>		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	<p>○大規模災害時の避難訓練については、地域との連携に課題があるので、更に指導を強化していく。</p> <p>○「見守り隊」による活動は、登下校時の安全確保に加え、挨拶運動の推進や学区内の危険箇所点検、不審者事案への抑制効果など、多方面で子どもの安心や安全につながっている。今後も地域と学校、警察との連携を深めたい。</p> <p>○「災害安全」についての指導はどの学校においても重点的に指導しているが、日常生活におけるけがや交通事故等の報告が以前よりも多くなっているため、「生活安全」「交通安全」に重点をおいた指導を行うことで、「自分の身は自分で守る」意識を更に児童生徒に持たせていくようにする。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携、6. 地域活動の活性化
施策	3-(1) 青少年の健全育成、3-(3) 地域教育力の向上、6-(4) 地域活動の活性化
担当部署	学校教育課、社会教育課、管理課
事業の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA、学校、地域が協同して行う学習機会の提供を支援し、青少年の健全育成を図る。 ・地域全体で「地域の子」、「社会の子」として育むため、子どもと地域の交流ができる機会の提供を行うことから地域の教育力の向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を通して、地域全体で取り組む体制づくりを推進し地域教育力の向上を図る。 ・事業の企画力と地域の課題を見出し、その解決に向けたノウハウを身につけた人材の育成を図る。 	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○中高生ボランティア育成事業、YYボランティア等の研修会への参加や各種活動を毎年継続して行っている。</p> <p>○地域人材交流講座（生涯学習推進講座開催事業）【予算現額及び決算額は40ページに含まれる】 地域において知識や技能を有する方から「地域の先生」として、小、中学生に伝統文化や農作業、ものづくりなどを指導していただき、地域に根ざした人材活用と異世代交流を進めた。 実施回数と人数：小学校279回、5,332人、中学校49回、1,632人、合計328回、6,964人</p> <p>○地域の教育力向上事業【予算現額7,500千円】【決算額7,111千円】 親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を実施した。 実施コミュニティ振興会は25団体、延べ事業数137事業、延べ参加人数12,615人。（詳細は資料P.48参照）</p>	
事業の効果	
<p>○中高生ボランティアの活動をとおしてボランティアの意識の向上や、地域リーダーの育成が図られた。</p> <p>○地域人材交流講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・家庭・学校が手を結び合い、地域の教育力としての地域人材の活用が図られた。 ・地域の先輩から生きた生活体験や地域の歴史・ルールなどを学び、児童の自立に向けた成長が見られた。 ・地域の指導者の方々は教える喜びや生きがいを見出している。 <p>○地域の教育力向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流（かかわり）や体験を通して、子どもたちの健全育成が図られ、地域の方々が関わりをとおして地域の教育力が向上した。 ・それぞれの地域に伝わる伝統芸能・文化を継続して体験することで後継者の育成が図られている。 	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>C</p> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校統廃合に合わせ、該当する複数のコミュニティ振興会に対して、地域間で協力した事業展開が図られるよう助言、働きかけを行っていく必要がある。 ・地域の先生が、高齢化に伴い減少することが懸念される。 <p>○方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材交流講座は、地域の人材を活用した異世代交流を図る事業として引き続き実施していく。 また、各地区コミュニティ振興会へ講師となる人材の育成と確保に関する働きかけを行っていく。 ・地域の実情や課題に対応した、事業の企画ができるよう、社会教育指導員や職員が、全市のコミュニティ振興会を定期的に訪問し、情報交換を行うなど、相談体制の充実を図る。 ・コミュニティ振興会共通の課題について、その解決を図るための講座や研修会を開催し人材の育成を図る。 ・地域教育力の向上事業について、これまでの事業効果を分析し事業趣旨及びそのあり方について検討を行っていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ			
基本施策	3. 家庭・学校・地域との連携			
施策	(2) 家庭教育の支援			
担当部署	社会教育課			
事業の目的及び目標				
○目的 ・子どもは社会の宝として社会全体で支えていくために、親子と学校・地域とのつながりを作る取り組みを推進するとともに、子どもの成長段階に応じた学習機会を提供し、家庭教育支援の充実を図り、親の学びを支援する。				
○目標 ・子どもの健全育成のために成長段階に応じた課題を設定しながら、切れ目のない家庭教育に関する学習機会を充実させ、家庭の教育力向上を目指します。				
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況			※予算現額及び決算額は40ページに含まれる	
○生涯学習推進講座開催事業のうち家庭教育講座が対象				
区分	事業名	講座内容及び実施状況	実施回数	人数
家庭教育	さんさん学級 (未就学児と保護者)	就園前の親子の触れ合いを推進するとともに、集団行動を学ぶ機会を提供した。いも掘り体験では地域の方々との交流も図った。 (音楽会、陶芸、いも掘り等体験活動)	6	150
	すくすく出前講座 (保育園・幼稚園児と保護者)	親子体験・幼児体験(ネイチャー、リトミック、陶芸、ダンス、積木)を通して親子でのふれあい、遊びを通じた人間形成の基礎を培った。	27園	1,255
	地域家庭教育講座 (小中学校児童と保護者)	学校と連携し、家庭教育に係る講演会等(読み聞かせ・生活習慣・親の心構えと関わり方、親子レク等)実施した。	23校実施 24回	1,521
	家庭教育セミナー ・小学校(就学前児童の保護者) ・企業「新規」	新1年生の保護者に対し、スムーズに就学できるよう親の心の持ち方と保護者同士のワークショップ等を実施した。また、24年度には企業向けの家庭教育講演会も実施した。	小学校2校 企業1社	小学校75 企業14
	いきいきママちゃん講座 「新規」(思春期の子を持つ親)	子どもの心の成長、食育、子どもにかかるお金の話等 グループで座談会形式でお互いの悩みを出し合うなど参加者同士の交流も図った。	5回	46
	家庭教育モデル講座 「新規」(保育園・幼稚園各1園)	就学前の児童がスムーズに入学するため、モデル園を指定して各種講座を実施「2か年」 (子育て講演会、のり巻きづくりと食育講話(食育)、マナー、読み聞かせ等)	9回	349
	「パパと一緒に」講座 「新規」(3～5歳児と父親)	父親と子どもとの交流を深めてもらうために(交流のきっかけづくり)、各種(リトミック、自然散策、積木等実施)ふれあい体験を実施。	3回	24
・家庭教育講座 7講座 77回実施、延べ参加者は3,434人(参考:平成23年度 4講座66回実施延べ参加者は3,755人)				
事業の効果				
○学校、保育園、幼稚園での実施事業では、保護者も参加しやすく、家庭教育支援が必要な保護者にも比較的参加していただけることが多く事業効果が高い。ただし、家庭教育支援はすぐに事業効果が表れにくいいため、継続した事業展開が必要である。				
○未就園児、未就学児に対しての親子の不安を取り除く事業に加え、思春期への対応、更に企業向けの講演会実施により将来親になる方からも聴いていただき、より切れ目のない事業展開に近づいた。				
○講演会の内容では、地域の中で子どもを育てる事の大切さを学ぶなど、家庭の中のみならず、子どもを育てていくためには学校や地域等社会全体の連携が必要であることも学んだ。				
点検結果・自己評価(課題・方向性)				
評価	C	○課題 ・学校等で使いやすい事業となるよう、企画段階から事業内容について相談等を行い互いに連携しながら進めていけるよう工夫が必要である。 ○方向性 ・校長会での事業説明に加え、小中学校への直接訪問を通してきめ細かな情報提供や、新規事業の事前相談と事業内容についての理解を深め利用の促進を図る。 ・講座内容(出前講座も含む)のマンネリ化が懸念されるため、他課との連携を含め、より事業効果を高めるために内容と開催曜日、回数等の検討を行う。		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携	
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の職業観の涵養や地域の理解、専門的な分野の体験のため地域の産業界や高等教育機関との連携を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の職場体験学習（インターンシップ）の充実を図り、キャリア教育を推進する。 ・中村ものづくり事業の活動を通して、地域の高等教育機関、産業界との連携を推進する。 		
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○中学生職場体験学習推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を組織して情報交換を行うとともに、体験学習のための資料の作成や職場体験後のまとめの作成等を各校毎に実施した。 <p>○中村ものづくり事業における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中村ものづくり事業の講師として、酒田光陵高等学校、県立産業技術短期大学校、鶴岡工業高等専門学校の先生方からの協力を得、ものづくりを通じた連携を図った。 ・地元の企業への職場訪問を通して、専門的なものづくりの現場を体験することができた。 <p>○東北公益文科大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループエンカウンター講師やものづくり事業の運営委員として助言をもらったり、学生ボランティア等の協力もお願いしている。 		
事業の効果		
<p>○中学生職場体験学習においては、市内全中学校で2日間以上の職場体験学習が実施でき、職業観の涵養とともに、実際に働くことの大変さや職場の方々との交流も図ることができた。</p> <p>○ものづくり事業においては、年間8回の「ものづくり塾」の他、「ものづくり科学教室」においては、酒田光陵高等学校の生徒からもボランティアスタッフとして参加してもらい、参加児童生徒にとっても、キャリア教育の良い機会となっている。</p> <p>○東北公益文科大学の先生方から専門的な助言をもらい、事業に生かすことができた。</p>		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	<p>○中学生職場体験学習推進事業は、キャリア教育の推進に大いに寄与しているので、今後も継続していく。</p> <p>○ものづくり事業についても、地域の産業界及び高等教育機関との連携が密に図られており、今後も継続していく。</p> <p>○東北公益文科大学をはじめとした高等教育機関との連携を更に図ることにより、児童生徒にとってより専門的で、かつ幅広い事業の展開につなげていく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携	
施策	(5) 青少年指導活動の推進	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、その能力を発揮できるよう、青少年指導センターが中心となり青少年の健全育成を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心豊かでたくましい青少年の育成と非行の未然防止に努める。 ・小・中・高等学校の生活指導・生徒指導担当者、警察等関係機関と連携を図りながら、幅広い活動を展開する。 ・街頭巡回指導と環境浄化活動の推進、相談活動の充実を図る。 		
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○街頭巡回指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間街頭指導、夜間街頭指導、特別街頭指導等を指導委員総勢256名で行った。 <p>○相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非行防止と問題行動の未然防止等、電話及び直接相談を行った。 <p>○環境浄化・広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く有害な環境を排除していくための活動を行った。 		
事業の効果		
<p>○民生委員・児童委員協議会連合会・保護司会、更生保護女性会、警友会、少年補導員連絡会、青少年育成推進員連絡協議会、各小学校・中学校・高等学校より推薦いただいた指導委員256名の方々から協力をいただき、酒田市全域を通年にわたり、児童生徒への声かけを含む総合的な街頭指導を実施することができた。(指導した少年の延べ人数H24年度：362名、H23年度：257名)</p> <p>○青少年育成推進員の方々も、地域の見守り隊と一緒に、児童生徒の見守り活動を行うことができた。</p> <p>○相談については、相談者の年齢の幅が広いこともあり、内容が多岐にわたっているが、相談件数は昨年度とほぼ同数である。(相談延べ件数 H24年度24件、H23年度15件)</p> <p>○有害図書類玩具自動販売機の青少年の利用がないように、見回りによる点検活動を行った。有害図書自動販売機の設置状況として、平成22年度まで4か所だったのが、平成23年度以降2か所に減っている。</p>		
点検結果・自己評価(課題・方向性)		
評価	B	<p>○指導委員に意識調査等を行うことにより、各地域の実態や時期に応じた効果的な巡回指導を行うことができた。</p> <p>○休日の中学生、高校生の行動(カラオケ・ゲームセンターの利用等)には、課題があるので、これまで以上に関係機関との連携、情報交換を密にしていくことで、非行の未然防止に努めていく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	4. 教育環境の整備				
施策	(1) 学校施設の整備				
担当部署	管理課				
事業の目的及び目標					
○目的 ・旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を高めるため、計画的に耐震診断を行い、必要に応じて改修、改築を行うことにより、学校施設の耐震化を推進し、安全で安心な施設整備を図る。					
○目標 ・酒田市の耐震化計画に基づき、平成31年度を目標に事情のあるもの以外の耐震化を図り、学校の良い教育環境整備を目指す。					
耐震化の進捗状況 上段：小学校 下段：中学校					
項目	算出方法	23年度	24年度	目標 26年度	目標 31年度
学校施設の耐震化割合	耐震化済みの学校施設割合(校舎・屋内運動場)	65.4%	82.1%	85.0%	100.0%
		79.4%	82.3%	90.0%	100.0%
※文部科学省は平成27年度で100%達成を掲げており、本市においても27年度達成を目処に取り組んでいる					
耐震診断事業 小中学校ともに平成22年度で完了					
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況					
〔耐震関係事業〕					
○琢成小学校改修事業【前年度繰越額243,146千円】【決算額208,750千円】					
・校舎改修の2期工事(校舎の耐震・老朽、トイレ改修)を行った。					
○富士見小学校改修事業【予算現額151,707千円】【決算額6,930千円】【繰越額144,777千円】					
・校舎、屋内運動場の改修工事の設計を行った。					
・校舎等改修1期工事(校舎・屋体の耐震・老朽、トイレ改修)はH25～144,777千円繰越し。					
○松陵小学校校舎等改修事業【予算現額227,880千円】【決算額0千円】【繰越額227,880千円】					
【前年度繰越額203,710千円】【決算額169,143千円】					
・校舎改修1期工事(校舎の耐震、老朽、トイレ改修)を行った。					
・校舎改修2期工事(校舎の老朽、トイレ改修ほか)はH25～227,880千円繰越し。					
○泉小学校改修事業【予算現額213,336千円】【決算額7,938千円】【繰越額205,398千円】					
・校舎、屋内運動場の改修工事の設計を行った。					
・校舎改修1期工事(校舎の耐震、老朽、トイレ改修)はH25～205,398千円繰越し。					
○飛鳥中学校改修事業【予算現額935,465千円】【決算額77,539千円】【繰越額852,401千円】					
【通次繰越4,867千円】					
【前年度繰越110,320千円】【決算額105,398千円】					
・校舎改修、統合により不足する教室の増築、屋体改築、グラウンド改修の設計を行った。					
・校舎改修1期工事(校舎の耐震、老朽、トイレ改修)、320㎡の校舎増築(H24・25継続)を行った。					
・校舎改修2期工事(校舎の耐震・老朽、トイレ改修)、屋体改築はH25～852,401千円繰越し。					

〔その他の改修事業〕

- 若浜小学校改修工事【予算現額56,081千円】【決算額56,039千円】
 - ・既存の老朽化した児童昇降口、木造校舎等を解体し、新たに児童昇降口の改築を行った。
- 松原小学校改築事業【予算現額189,282千円】【決算額140,698千円】【繰越額48,285千円】
 - 【前年度繰越10,000千円】【決算額8,657千円】
 - ・既存校舎の解体、約10,000㎡のグラウンド整備、外構工事を行った。
 - ・グラウンド整備、外構その他工事はH25へ48,285千円繰越し。
- 亀城小学校改築事業【予算現額533,924千円】【決算額533,711千円】
 - 【前年度繰越5,628千円】【決算額452千円】
 - ・校舎改築（H24・25継続）、校舎改築に伴う校舎解体（H23・24継続）、仮校舎改修（H23・24継続）を行った。
- 統合小学校改修事業【予算現額252,363千円】【決算額244,102千円】
 - ・統合により閉校した平田中学校を東平田、中平田、北平田小学校の統合小学校として活用するため校舎等改修、プール整備、調理室整備、備品購入を行った。
- 鳥海小学校新校舎改修事業【前年度繰越額17,738千円】【決算額17,364千円】
 - ・前年度より繰越されたグラウンド改修を行った。
- 第二中学校改築事業【予算現額197,964千円】【決算額139,998千円】【繰越額57,706千円】
 - ・既存校舎の解体、約12,000㎡のグラウンド整備を行った。
 - ・グラウンド整備、外構工事はH25へ57,706千円繰越し。
- 鳥海八幡中学校改修事業【予算現額117,422千円】【決算額0千円】【繰越額117,422千円】
 - ・校舎の老朽改修の設計、改修工事はH25へ117,422千円繰越し。
- 施設整備事業（小学校）【予算現額25,122千円】【決算額22,453千円】
 - ・小学校施設の改修を年次計画等に基づき行った。

改修内容

プール塗装（鳥海小）、プールろ過装置（泉、南平田）、屋根防水改修（若浜）
 フェンス改修（若浜グラウンド、宮野浦プール）、防火シャッター改修（黒森）
 ダムウェーター改修（一條）、FFストーブ改修（泉）、ボイラー改修（広野）

○施設整備事業（中学校）【予算現額6,081千円】【決算額6,081千円】

- ・中学校施設の改修を年次計画等に基づいて行った。

改修内容 バスケットコートライン改修（第一中ほか4校）、屋体床塗装（第三中）

事業の効果

当初計画した学校の耐震診断については平成22年度で完了し、改修・改築の計画を策定しながら、工事の進捗を図り、学校施設の耐震化を推進することができた。

点検結果・自己評価（課題・方向性）

評価	A	<p>○児童、生徒の安全確保と災害時の地域の避難所としての機能確保のため、今後も学校耐震化を積極的に推進する必要がある。</p> <p>○学校施設・設備の老朽化改善のため、状態の確認、改修、更新を年次的に進め、施設・設備の長寿命化を図り、安全な教育環境の整備に取り組んでいる。</p>
----	---	--

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	(2) 学校規模の適正化の推進
担当部署	管理課
事業の目的及び目標	
<p>○目的</p> <p>・少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、児童生徒の教育の機会均等と維持向上を図るため、学校規模の適正化を進め、教育環境の整備を図る。</p> <p>○目標</p> <p>酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針</p> <p>1. 学校規模に関する基本的な考え</p> <p>(1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。</p> <p>(2) 複式学級の解消に努める。</p> <p>(3) 過大規模校は(31学級以上)は設置しない。</p> <p>2. 当面存続する規模</p> <p>当面存続する学校規模・学級規模の指針として、次のように設定する。</p> <p>(1) 小学校 ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模</p> <p>(2) 中学校 ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模</p> <p>3. 配慮事項</p> <p>学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。</p> <p>※学校規模に関する基本方針に基づき、統合を進める学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二中学校・平田中学校(平成24年4月統合) ・東平田小学校・中平田小学校・北平田小学校(平成25年4月統合) ・亀城小学校・港南小学校(平成26年度) ・松山中学校・飛鳥中学校(平成26年度) 	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学区改編推進事業【予算現額 1,278千円】【決算額 748千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の適正規模及び適正配置について審議する学区改編審議会を開催した。 ・「東平田・中平田・北平田小学校」「亀城小学校・港南小学校」「松山中学校・飛鳥中学校」の統合準備委員会及び各部会を開催し、統合に向けた諸課題について協議した。 ・「学区改編だより」「教育委員会からのお知らせ」を発行し、地域や保護者の方々に統合の計画や進捗状況等についての周知を図った。 ・松山地域において「教育を考える懇談会」を開催し、地域の小学校の適正規模等に関する説明及び意見交換等を通じて、地域や保護者の方々との課題等の共有を図った。 <p>○学校統合事業【予算現額 8,117千円】【決算額 6,853千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二中学校の開校式及び東平田・中平田・北平田小学校の開校式を開催した。 ・東平田・中平田・北平田小学校の開校(開校式、開校記念事業補助金等)及び平田小学校の開校(開校式、校歌・校章デザイン作成委託、備品の移転等)に向けた諸準備を行った。 	
事業の効果	
<p>○平成25年4月に東平田・中平田・北平田小学校の統合により平田小学校が開校した。</p> <p>○「亀城小学校・港南小学校」「松山中学校・飛鳥中学校」の統合準備委員会や各部会における協議により、統合に向けた準備体制の構築が図られている。</p> <p>○適正規模に課題がある地域における「松山地域の教育を考える懇談会」の開催により、学校の適正規模の課題について理解が深まった。</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	<p>A</p> <p>○適正規模の教育環境が整ったことにより、教職員の指導体制や児童相互が学びあう環境が充実し、学校運営や児童の学校活動等の活性化が図られた。</p> <p>○学校統合と施設整備の時間のずれが生じ、第二中学校のグラウンド整備により開校後1年2か月使用できなかった。既存校を統合校とする場合は今後とも起こりうる課題である。</p> <p>○今後とも適正規模に課題がある小・中学校については、地域住民と十分話し合い、理解と合意のもとに学校の適正規模適正配置に努めていく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	(3) 通学の安全確保
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の通学の安全を確保するために、地域学校安全指導員の活動など、学校と地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員や各学校の見守り隊及び関係機関との連携を図ることで、児童生徒が安全安心に登下校できるようにする。 	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○子どもの安全安心通学対策事業【予算現額1,955千円】【決算額1,952千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員5名及び各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。 ・青色回転灯を装備した車両による防犯パトロールについて、見守り隊協力者と学校教職員26名が警察より証明を受け、市教委として回転灯の貸与・パトロール車表示用ステッカー貸与を行った。 ・メール配信希望の保護者や地域の方々に不審者情報の一斉送信ができた。一斉メール配信システムの周知を小中学校の保護者に行った。(登録件数5,785件：H25.5.30現在) (H24の配信数4件) <p>○遠距離通学対策【予算現額35,513千円】【決算34,448千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、バス対応は約60日、定期券対応は約3か月分の経費の負担を行った。 <p>○スクールバスの運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年は、小学校概ね4km、中学校が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。 	
事業の効果	
<p>○学校と関係機関相互の情報交換や酒田警察署との連携した活動を行うことができた。</p> <p>○青色回転灯を装備してのパトロールが定着することで、安全安心な通学に寄与している。</p> <p>○一斉退校等、下校時刻の繰り上げ等の情報を、個別の学校に安全安心メールで配信したことにより、学校から保護者への緊急連絡の手助けになった。また、非常災害時の児童の引き渡し訓練などにもメール配信を利用し、実際の訓練を実施した学校もある。</p> <p>○遠距離通学の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。</p> <p>○学校統合に当たってのスクールバス運行については、基準に照らしながら対応し、円滑なスタートに努めることができた。</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見守り隊連絡協議会やリーダー研修会を通して、パトロール実施者の増員を今後とも呼びかけていく。 ○通学路の安全点検を学校、学校教育課、まちづくり推進課、土木課、警察などと連携して行い、改善すべき箇所について対応していくことで、児童生徒の通学路の安全確保に努めていく。 ○年度当初にメール配信システムの登録を呼びかけているが、登録の仕方を分かりやすくするための広報活動を実施していく。 ○学校統合に向けて、各校の現状をきちんと把握した上でスクールバスの運行を進める。また冬期間のバス運行についても地域の実態を把握した上で対応をしていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	4. 教育環境の整備	
施策	(4) 学習バスの運行	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標		
○目的 ・市で保有する学習バスを積極的に活用し、社会体験活動や自然体験活動などの、校外での学習活動を支援する。		
○目標 ・各学校等で行われる学習活動への積極的な支援を図るとともに、児童生徒への安全に配慮した運行を行う。		
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況		
○学習バス・スクールバス管理事業【予算現額128,064千円】【決算額120,836千円】 ・市保有の学習バスにより、校外学習を実施している。		
事業の効果		
○校外での直接の見聞による体験的活動をとおり、学習への関心・意欲等が助長された。 ○市が保有する学習バスの活用により、学習エリアの広域化が図られた。		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	○年々増加傾向にある学習バスの利用について、学習バスの活用が妥当であるかどうかを見極める必要がある。 ○学習バスを利用する際の、児童生徒へのバス乗車マナーなど、交通安全意識の啓発をしていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	4. 教育環境の整備					
施策	(5) 学校ICT環境の整備充実					
担当部署	学校教育課					
施策の目的及び目標						
○目的 ・時代に対応したICT環境としていくために、教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ等のICT機器の保守及び更新を定期的に進めるとともに、適正な運用を図る。						
○目標						
		H22	H23	H24	H26	H31
授業でICT機器を使用できる教員の割合	小	65%	69%	74%	75%	100%
	中	60%	60%	61%	70%	100%
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況						
○デジタルキャンパスネットワーク事業【予算現額67,729千円】【決算額67,130千円】 ・小学校732台、中学校313台の教育用コンピュータを賃貸借契約により整備しており、H24年度は、253台更新した。 ・校務用コンピュータのサポート、サーバの保守を実施した。 ・校務用グループウェアの更新をした。 ○情報教育担当者会、市教研視聴覚部会において、情報モラル及びICTを活用した授業についての研修を実施した。						
事業の効果						
○PC及びICT機器を授業で活用することと、情報モラルについて学ぶことを通して児童生徒の情報化社会を生きる力を育てることができた。 ○各教科の授業において、PC及びICT機器を効果的に活用することで、児童生徒の学習意欲を高めることができ、より深い内容の理解につながっている。 ○平成24年度末、授業でICT機器を活用できる教員の割合は、小学校74%、中学校61%であり、少しずつではあるが向上している。						
点検結果・自己評価（課題・方向性）						
評価	B	○教育用コンピュータは、今後とも児童生徒の情報活用能力の育成のため、定期的に更新しながら、賃貸借契約による整備を継続していく必要がある。 ○校務用コンピュータについては、グループウェアの更新をしたことにより、教育情報のデータベースを一元化管理・共有できる方向に進みつつある。 ○ICT機器を活用できる教職員の割合が、小学校では増えてきているが、中学校では、あまり増えていない現状である。校務用グループウェアの研修会等において、授業におけるデジタルテレビや電子黒板等のICT機器の効果的な活用方法について、更に研修を深めていきたい。				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	(6) 教育の機会均等
担当部署	管理課

事業の目的及び目標

○目的

・家庭の経済状況にかかわらず、高等学校や高等教育機関への修学の機会が確保されるよう市独自の制度により経済的支援を行うことで本市の子どもたちの教育を受ける権利の保障に資する。

○目標

・国・県など他の支援制度とのバランスを考慮しながら本市の支援制度を検討・維持し、経済情勢の変動に関わらず支援制度が広く市民に周知され、必要な市民が利用できるようにする。

平成24年度 主な事業の概要及び実施状況

○京野教育振興基金大学修学奨学金

・経済的に困窮していると考えられる世帯で、4年制国立大学法人立・公立大学等に進学する本市出身の学生の保護者について入学時の支援として30万円/世帯を給付

○大学等修学資金利子補給金

・本市出身の学生に対する修学に係る経済的支援を図るため教育ローンの利子補給金を交付

○私立高等学校生徒授業料軽減補助金

・私立高等学校に在籍している生徒の授業料等にかかる諸経費の負担軽減を図るため、低所得層に類されると考えられる世帯に補助金を交付

平成24年度に実施された税制改正に対し、対象となる世帯の実質的な所得制限の引き上げを抑止するため、世帯の所得判定に関して前年度までの計算方法において判定するよう制度改正を実施

周知実績

	周知先	配布部数	備考
京野基金	市内各高校・広報	100	卒業前の3学年に周知
利子補給	高校・大学・金融機関・広報	1,400	卒業前の3学年に周知、23機関に配布
授業料軽減	県内各私立高校・広報	800	市内3校、市外13校

事業実績

	予算額	前年度比	決算額	前年度比	交付件数	前年度比	備考
京野基金	900,000	0	900,000	0	3	0	申請件数5件
利子補給	3,061,000	△ 607,000	2,488,083	△ 378,299	72	△ 10	H24度新規交付件数24件 H23度新規交付件数28件
授業料軽減	4,272,000	288,000	3,996,000	12,000	107	△ 1	生保6件 市民税非課税64件 市民税均等割のみ課税37件

事業の効果

平成24年度税務概要における主な数値から本市の状況を推察すると、人口減に比例して給与所得者数は減少傾向にある一方、給与所得者の総所得金額は23年度比で増加(1.8%)している。課税標準額の推移でみると、対23年度比で100万円以下の人員は4.7%減少している一方で、100万円超～400万円以下の人員は8.4%増加しており、各事業において所得判定に使用する市民税の課税状況の分析においては、本市では中間所得層の増加傾向がみられる。

こうした状況の中で、特に低所得者層への支援としての京野基金・授業料軽減については、前年度並みの実績を残したことは、一定の周知および教育機会の確保の機能は果たされているものと考えられる。

また、平成24年度税務概要によると、市民税の均等割のみの納税者は税制改正の影響もあり対23年度比で6.5%の増加であるが、授業料軽減の実績件数が前年度比で大きく落ち込まなかったのは制度改正の効果があったものと推測される(影響件数18件)。

利子補給については交付件数が全体で10件減少している。新規交付件数は4件の減少、残り6件の減少は継続対象者の支給終了による減少である。新規交付件数が大きく落ち込んでいないことから、新規利用者への周知効果及び制度利用については例年同様のレベルを維持できたと考える。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

評価	A	<p>○事業の効果の検討のとおり周知についてはある程度出来ており、制度自体は一定の役割を果たしていると評価。</p> <p>○税制改正に対応し年少扶養控除及び特定扶養控除について従前の例により計算することとした私立高等学校生徒授業料軽減補助金の制度改正の実施については、総交付件数の約10%に相当する18件の利用者について税制改正の影響を受けずに交付対象とすることができた。</p> <p>○家庭の経済状況になるべく影響されずに本市に住む子どもたちの教育を受ける機会を確保できるように、国や県の類似する制度及び民間の修学支援事業等との関連を随時確認しながら、今後も制度改正及び周知方法について状況に応じて対応していく。</p>
----	---	---

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																																		
基本施策	4. 教育環境の整備																																		
施策	(7) 私立学校等の振興																																		
担当部署	管理課																																		
事業の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の教育理念のもと、本市の教育振興に貢献している私立高等学校の健全な運営に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済状況及び人口減少などの状況と補助内容を考慮しながら、子どもたちが教育を受ける機会の均等化を図るため補助金を交付する。 																																		
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○私立高等学校運営費補助金</p> <p>予算現額 3,150,000円 交付額 3,150,000円</p> <p>【内訳】</p> <table border="0"> <tr> <td>酒田南高等学校</td> <td>1,400,000円</td> </tr> <tr> <td>天真学園高等学校</td> <td>1,400,000円</td> </tr> <tr> <td>和順館高等学校</td> <td>350,000円</td> </tr> </table>			酒田南高等学校	1,400,000円	天真学園高等学校	1,400,000円	和順館高等学校	350,000円																										
酒田南高等学校	1,400,000円																																		
天真学園高等学校	1,400,000円																																		
和順館高等学校	350,000円																																		
事業の効果	<p>独自の教育理念のもと本市の教育振興等に貢献している私立高等学校の健全な運営のために補助金を交付しているが、本市において、16～18歳人口の減少に比例して公立高等学校の生徒数が減少傾向にある一方で私立高等学校の生徒数は減少していないこと、私立高等学校の教員数についても微増していること、市内の高校生人数に占める私立高校生徒数の割合が2割を超えていることから考慮すると、私立高等学校は本市の教育において大きな役割を担っていると言える。</p> <p>【指数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県立・市立高校生徒数</td> <td>100.0</td> <td>94.4</td> <td>89.7</td> </tr> <tr> <td>私立高校生徒数</td> <td>100.0</td> <td>110.4</td> <td>104.1</td> </tr> <tr> <td>16～18歳人口</td> <td>100.0</td> <td>97.2</td> <td>93.8</td> </tr> <tr> <td>私立高校教員数</td> <td>100.0</td> <td>102.9</td> <td>105.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H22度の各数値を100として各年と比較 ※生徒数及び教員数は各年5月1日現在の数値から算定（市政要覧より） ※16～18歳人口は各年3月末日の数値から算定（市情報管理課統計資料より）</p> <p>【市内高校生人数に占める私立学校生徒数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市内高校生人数</td> <td>3,442人</td> <td>3,369人</td> <td>3,195人</td> </tr> <tr> <td>私立高校生徒数率</td> <td>21.5%</td> <td>24.3%</td> <td>24.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※生徒数及び教員数は各年5月1日現在の数値から算定（市政要覧より）</p>				H22	H23	H24	県立・市立高校生徒数	100.0	94.4	89.7	私立高校生徒数	100.0	110.4	104.1	16～18歳人口	100.0	97.2	93.8	私立高校教員数	100.0	102.9	105.7		H22	H23	H24	市内高校生人数	3,442人	3,369人	3,195人	私立高校生徒数率	21.5%	24.3%	24.1%
	H22	H23	H24																																
県立・市立高校生徒数	100.0	94.4	89.7																																
私立高校生徒数	100.0	110.4	104.1																																
16～18歳人口	100.0	97.2	93.8																																
私立高校教員数	100.0	102.9	105.7																																
	H22	H23	H24																																
市内高校生人数	3,442人	3,369人	3,195人																																
私立高校生徒数率	21.5%	24.3%	24.1%																																
点検結果・自己評価（課題・方向性）																																			
評価	A	<p>○私立高等学校は独自の教育理念のもと本市の教育振興等に貢献しており、また、本市の子どもたちの教育において、教育の機会均等・子どもたちの教育を受ける権利の保障の一助として欠かせない存在となっており、本市にある私立高等学校の健全な運営のための支援策としての補助金交付は妥当なものである。</p> <p>○本市においては、今後、少子化が進んでいくことが明らかな状況であるが、本市の子どもたちの教育を受ける機会の均等化において欠かせない役割を担う私立高等学校の健全な運営のために、県の補助制度とあわせて引き続き支援を行っていく。</p>																																	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(1) 教職員研修等の充実
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標 ○目的 ・信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上のための研修活動、教員評価を実施する。 ○目標 ・学校研究に沿った授業研究会への指導主事派遣を充実させて、指導力の向上を図る。 ・各種研修会及び各校での授業研究会を通し、教職員としての資質向上を図る。	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況 ○初任者研修、教職10年経験者研修の実施 ・市の初任者研修として「学級づくり研修」「市内教育施設の訪問」等を実施した。(該当者13名) ・市の教職10年経験者研修は、5月に全体研修「服務研修」「生徒指導の現状と課題」の実施と、7、8月に「知見を広める体験研修」として、企業や福祉施設等における体験的研修を実施した。(該当者5名) ○各種研修会の実施 ・教科指導力向上のための研修 理科教育センター事業として研修会を4回開催(延べ53名参加) 市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を合計28回開催 ・生徒理解のための研修 教育相談研修講座を4回開催(延べ512名参加) 教育相談担当者を対象とした実践力を育成する研修会を4回開催 ・特別支援教育のための研修 特別支援教育コーディネーター資質向上研修を2回開催(延べ132名参加) ○教員評価の試行 ・すべての教員が自己目標を設定し、個人や組織としての工夫を図り、資質の向上に努めた。	
事業の効果 ○初任者研修では、教員としての自覚を高め、責任の重さに気付くとともに、市内教育施設の訪問を通して、連携の大切さと学校教育の役割を再認識することができた。 ○教職10年経験者研修では、民間企業や福祉施設における体験的研修を通して、仕事の厳しさや働く喜び、社会貢献の大切さを実感することができた。 ○教科指導力向上のための研修会では、国語、算数・数学、英語・外国語活動において、文部科学省より調査官を招聘し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の在り方、小中が連携した指導の在り方について研修を深めることができた。 ○教員評価の実施により、自己目標の設定と達成に向けての取組みの中で、教員の学校経営参画意識を高めることができた。	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	B ○研修会に参加した教職員が他の教員に対して研修内容を広めることに課題がある。校内での復命体制及び研修体制などを各校に指導していくことで、教職員の資質・能力の向上に更に努めていく。 ○安全、安心な学校づくりでの研修が課題である。防災教育の研修会を初任者研修、教職10年経験者研修の中で実施していく。 ○算数・数学の学力が、本市の課題である。今後は、算数・数学に特化して研修を進め、教員の指導力を高めていく。 ○個々のキャリアに応じた研修活動に課題がある。学校における担任力(学習指導力・生徒指導力・特別支援教育力)の研修とともに、服務研修についても一層の充実を図る。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進	
施策	(2) 学校運営の公開と学校評価システムの推進	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼され開かれた学校づくりを進めるために、保護者や地域住民の学校運営への参画や教育活動等の評価システムの機能を充実させる。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域が一体となった地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進める。 ・より良い学校運営につなげる学校評価システムを推進していく。 		
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関して第三者の意見を生かしていくために、全小中学校で学校評議員の委嘱を行った。特に、統合に係る学校では、よりよい学校づくりのため、意見をもらうことができた。 <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学校も自己評価、学校関係者評価を実施している。学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、学校評議員に提示しての学校関係者評価を行い、学校経営の改善につなげている。 		
事業の効果		
<p>○学校評議員会の開催により、地域での子ども達の様子を把握するとともに、地域の方々が学校をサポートする体制づくりが強まっている。また、ホームページを公開する学校が増え、学校の運営方針や児童生徒の活躍の様子をインターネット上で公開している学校も多くなった。</p> <p>○地域の方々に授業や学校経営の方針等を公開することで、学校・家庭・地域が、学校の教育目標を共有し、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>○アンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価の実施により、地域の思いや願いが、学校経営にも反映し、児童生徒の学校生活の充実につながっている。</p>		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	<p>○学校の課題に対する幅広い意見を集約する観点から、人選のあり方を検討してもらうよう各校に働きかけていく。</p> <p>○学校経営の改善に生きる評価システムにしていくために、年度初めに、重点や学校課題（評価の観点）を保護者や地域の方々に示すように各校に指導していく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(3) 特色ある学校づくりの推進
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	
<p>○目的</p> <p>・地域社会や児童生徒の実態を踏まえ、各学校の経営の柱として、特色ある教育活動を展開し、活力ある学校経営を推進する。</p> <p>○目標</p> <p>・各校が設定したテーマ及び観点に沿った評価（5段階）を行い、「4」以上の学校数を85パーセントにする。</p>	
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○特色ある学校づくり支援事業 【予算現額5,550千円】【決算額5,369千円】</p> <p>・1校あたり15万円の交付金をもとに、テーマ及び具体的な教育活動を設定し実践した。</p> <p>地域連携のための活動を主なものとしている学校 17校 児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校 17校 学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校 7校 児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校 5校 学級経営、学習活動の推進を主なものとしている学校 14校 ※学校数は延べ数</p>	
事業の効果	
<p>○成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート、学校内外の評価の結果等を5段階で評価した。各観点の平均「4」以上の学校数は86.49%となった。（平成23年度73.68%）</p> <p>○取り組む内容をテーマ化したことで、児童生徒がより豊かな学校生活を送ることができた。</p> <p>○勤労生産体験活動や地域行事に参加することにより、地域の人々とのふれあいを深め、地域を理解し郷土を愛する心、優しい心を育むことができた。</p> <p>○生徒が主体的に取り組む活動を通し、達成感の会得及び社会力の育成を図ることができた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <p>○各学校で、前年度事業評価において達成度の低かった項目について原因を究明し対策及び改善点などを検討の上、本年度事業に取り組んだ結果、評価の向上が図られた。</p> <p>○各学校の実態に応じた事業の実施により、一層自主的・自律的な学校経営が推進され、高い効果が得られたものとする。</p> <p>○「特色ある」という意味では、どの学校も同じような事業内容が多かったという指摘を受け、平成25年度より「明るく楽しい元気な学校づくり支援事業」と名称を変更し、例えば、良好な人間関係づくりの構築等も含めた目指す学校像・児童生徒像を具現化するための教育活動に対し支援していく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(4) 学校施設の地域開放の推進
担当部署	管理課

事業の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設を学校教育や安全管理に支障のない限りにおいて地域に開放し、学校が地域住民の生涯学習、生涯スポーツ活動の一拠点として役割を担っていくことで、学校と地域の連携を深めていく。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全ての小中学校において、学校と地域との相互の連絡調整のもとに学校開放を実施する。
-----------	---

平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○平成24年度学校開放実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学校数</th> <th>実施校数</th> <th>実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>29校</td> <td>29校</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>9校</td> <td>9校</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>38校</td> <td>38校</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○平成24年度1校当たりの週平均稼働日数</p> <p style="text-align: right;">単位：日／週</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">小学校</th> <th rowspan="2">中学校</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>市街地</th> <th>旧公民館地区</th> <th colspan="2">総合支所管内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体育館</td> <td>4.6</td> <td>6.3</td> <td>4.2</td> <td>3.3</td> <td>4.0</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>グラウンド</td> <td>3.0</td> <td>4.2</td> <td>2.6</td> <td>2.0</td> <td>0.9</td> <td>2.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※グラウンドについては4月～11月の期間において週平均を算出</p>		学校数	実施校数	実施率	小学校	29校	29校	100.0%	中学校	9校	9校	100.0%	計	38校	38校	100.0%		小学校				中学校	合計	市街地	旧公民館地区	総合支所管内		体育館	4.6	6.3	4.2	3.3	4.0	4.5	グラウンド	3.0	4.2	2.6	2.0	0.9	2.5
	学校数	実施校数	実施率																																							
小学校	29校	29校	100.0%																																							
中学校	9校	9校	100.0%																																							
計	38校	38校	100.0%																																							
	小学校				中学校	合計																																				
	市街地	旧公民館地区	総合支所管内																																							
体育館	4.6	6.3	4.2	3.3	4.0	4.5																																				
グラウンド	3.0	4.2	2.6	2.0	0.9	2.5																																				

事業の効果	<p>体育館の利用日数を1週間平均に換算すると4.5日／週、同様にグラウンドについて1週間平均をみると2.5日／週の利用実績となっている。</p> <p>学校施設が生涯学習や生涯スポーツ等の地域活動に高い頻度で利用されていることから、学校開放が通常の教育活動のほかに学校と地域とが関わる機会を創出していると考えられる。</p>
-------	---

点検結果・自己評価 (課題・方向性)	
評価	<p>A</p> <p>○学校開放が、市内全ての小中学校で実施されており、学校開放に係る各団体の利用調整については学校が地域団体と連絡を密にとりながら実施されている現状及び学校施設の使用頻度の高さを考慮すると、学校開放が、学校と地域の関わりの機会となっている点で評価できると考える。</p> <p>○今後も、学校が地域活動及び地域の生涯学習・生涯スポーツの一拠点として機能するよう学校開放を継続していく。</p>

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう																																						
基本施策	6. 生涯学習の充実																																						
施策	(1)生涯学習推進体制の整備 (2)生涯学習社会の基礎づくり (3)学習機会の提供 (4)地域活動の活性化																																						
担当部署	社会教育課																																						
事業の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報、ホームページ、カモンくんニュース、カモンくんこどもニュースを活用し市民への情報提供を行う。 ・生涯学習指導者を増員し、市民の学習ニーズに対応する。 ・生涯学習施設の適切な改修・修繕を行い、安全で快適な施設運営に努める。 ・サークル・団体、講座などの情報提供の充実を図り、誰もが学習に参加しやすい環境の整備を図る。 ・市民が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」気軽に生涯学習ができるよう各種講座等を開催する。 ・各種教育機関や関係機関と連携し、社会の変化に対応した必要な課題に関する学習機会の提供を図る。 ・教室・講座の自主サークル化を促進し、サークルリーダーの育成と指導者の養成を図る。 <p>○目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>31年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習事業の満足度</td> <td>83%</td> <td>85%以上</td> </tr> </tbody> </table>			項目	26年度	31年度	生涯学習事業の満足度	83%	85%以上																														
項目	26年度	31年度																																					
生涯学習事業の満足度	83%	85%以上																																					
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○生涯学習推進講座開催事業【予算現額 6,377千円】【決算額 5,967千円】</p> <p>市民がいつでも、どこでも、だれでも気軽に生涯学習できるよう、幼児から成人までの幅広い年代層を対象とした講座を51講座、604回開催して、延べ参加人数は35,487人となった。(詳細は別紙資料P.49参照)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>各時期等</th> <th>講座数</th> <th>実施回数</th> <th>延べ参加人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼児講座</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>1,178</td> </tr> <tr> <td>少年講座</td> <td>8</td> <td>391</td> <td>9,578</td> </tr> <tr> <td>青年講座</td> <td>8</td> <td>45</td> <td>630</td> </tr> <tr> <td>成人講座【教養・文化・健康講</td> <td>12</td> <td>58</td> <td>1,213</td> </tr> <tr> <td>家庭教育講座</td> <td>7</td> <td>77</td> <td>3,438</td> </tr> <tr> <td>指導者養成講座・情報提供</td> <td>6</td> <td>14</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>催し</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>19,165</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>51</td> <td>604</td> <td>35,487</td> </tr> </tbody> </table> <p>※成人講座に東北公益文科大学市民大学講座・出前講座を含める。 ・東北公益文科大学市民講座は現代的課題を選定し、地域づくりについて学ぶ機会を提供した。</p> <p>○総合文化センター耐震診断業務委託料【決算額 7,770千円】 耐震診断業務の委託を行った。</p> <p>○松山歴史公園整備事業【予算現額 116,462千円】【決算額 115,963千円】 公園整備については、用地取得、測量及び実施設計を行った。伝習機能施設整備については、用地取得、地盤調査及び実施設計を行った。いずれも地域住民や利用団体との合意形成に努めた。平成26年度の完成を見込んでいる。</p>			各時期等	講座数	実施回数	延べ参加人数(人)	幼児講座	4	10	1,178	少年講座	8	391	9,578	青年講座	8	45	630	成人講座【教養・文化・健康講	12	58	1,213	家庭教育講座	7	77	3,438	指導者養成講座・情報提供	6	14	285	催し	6	9	19,165	計	51	604	35,487
各時期等	講座数	実施回数	延べ参加人数(人)																																				
幼児講座	4	10	1,178																																				
少年講座	8	391	9,578																																				
青年講座	8	45	630																																				
成人講座【教養・文化・健康講	12	58	1,213																																				
家庭教育講座	7	77	3,438																																				
指導者養成講座・情報提供	6	14	285																																				
催し	6	9	19,165																																				
計	51	604	35,487																																				
事業の効果	<p>○講座等について広報、ホームページやカモンくんニュースのほか、事業毎の個別チラシなどで周知に力を入れたことにより、より多くの人に情報提供することができた。</p> <p>○平成24年度は、新たに5人の生涯学習指導者の登録があった。</p> <p>○平成24年度に中央公民館の耐震診断を実施した結果、耐震改修が必要であることが判明した。</p> <p>○各世代の課題に対応した講座を開催し、多くの参加者を得ることができた。満足度は88%となって、目標を達成できた。</p> <p>○出前講座は、各団体、サークル等のニーズに沿った講座を開講することができた。受講団体には大変好評であった。</p> <p>○成人趣味教養講座の受講者から、平成24年度は1つのサークルが発足し、生きがいつくりと仲間づくりの動機付け、サークルリーダーの育成が図られた。また、サークル支援期間が終了した3つのサークルが自主活動を継続している。</p>																																						
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的課題に対応した講座で受講者が少ない。学んだことを地域や社会に還元するような仕組みができていない。また、文化センターについては、安全な施設管理を行うため、耐震補強工事を行う必要がある。 <p>○方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者のアンケートなどから各年代の課題や住民のニーズを把握するとともに、各事業終了後に評価を行い、事業の見直しを行なっていく。 ・個人の要望と社会の要請による講座開催のバランスを考慮しながら、講座編成の見直しを行っていく。 ・東北公益文科大学市民大学講座は、比較的高い年齢の方々や継続して受講する市民が多いことから、広範な年齢層の参加が得られるよう検討していく。また、講義について、受講者が課題解決の技能を習得できるような方式を検討していく。 																																						
評価	C																																						

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう	
基本施策	6. 生涯学習の充実	
施策	(5) 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携	
担当部署	社会教育課	
事業の目的及び目標		
○目的 ・生涯学習団体による自主活動を推進するため運営に対し支援する。		
○目標 ・各補助団体が円滑な運営を行い、広く市民の生涯学習の推進を図る。		
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況		
○生涯学習振興支援事業 【予算現額 1,299千円】 【決算額 1,299千円】		
補助団体	補助金額	活動内容
酒田市子ども会育成連合会	90千円	各学区総会や関係団体会議との連携、子どもまつり参加、親子ふれあい遊びの乗校、リーダー学習会、会報発行ほか
酒田海洋少年団	144千円	子どもまつり参加、通常訓練、合宿訓練、東北地区指導者研修会ほか
酒田市婦人会連絡協議会	330千円	関連団体との連携、酒田・飽海地方婦人大会、研修会ほか
酒田市青少年を伸ばそう市民会議	135千円	青少年の健全育成に係る会員研修、街頭啓発活動、巡回指導、会報発行ほか
酒田市白鳥を愛する会	100千円	自然環境づくり(マコモ植栽)、花植え環境整備、学校への出前講座、白鳥観察会ほか
日本PTA協議会第44回東北ブロック研究大会酒田・飽海大会実行委員会	500千円	東北ブロック研究大会酒田・飽海大会開催
○生涯学習施設「里仁館」支援事業 【予算現額 7,300千円】 【決算額 7,300千円】 教養講座や親子講座、特別講座等で44テーマ、開講数100回、延べ3,817人が受講した。		
事業の効果		
○この事業による補助金の交付で、青少年の健全育成や生涯学習活動などを行うそれぞれの団体活動の活性化に資することができた。 ・子ども会育成連合会⇒団体の行うリーダー育成、危険訓練により単位育成会における危険予知活動の実践、安心安全マップ作り等により子ども達の安心安全な生活の実現に資することができた。 ・青少年を伸ばそう市民会議⇒青少年育成環境浄化や啓発活動の徹底が図られた。 ・白鳥を愛する会⇒マコモの植栽等による環境整備活動により、白鳥が飛来する自然環境が整えられ、市民の情操教育支援に資することができた。 ・PTA東北ブロック研究大会⇒東北各県から約1,800名の仲間が集い、活発な意見交換を通じ、地域のPTA活動に活かされた。(単年度補助) ・生涯学習施設「里仁館」支援事業⇒里仁館の主催事業を通じ、庄内地域の生涯学習の振興が図られた。		
点検結果・自己評価(課題・方向性)		
評価	C	○生涯学習団体が主体的に実施している有益な生涯学習活動に対して支援を行うことにより、団体の円滑な運営に資することができた。 しかし、団体によっては会員の高齢化や減少により会の活動に影響が出てくること懸念されることから、活動内容を十分に把握し適正な補助が行われるよう注視していく必要がある。 ○里仁館は、第2次振興計画に基づき、講座内容の充実と受講料の見直しを行いながら、生涯学習の振興を図っていることから、引き続き運営費に対し、支援を行っていく。

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう					
基本施策	7. 図書館活動の充実					
施策	(1) 図書館機能の充実					
担当部署	図書館					
事業の目的及び目標						
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の生涯学習の拠点として各種図書資料をバランスよく収集し、窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。 <p>○目標</p>						
	項目	算出方法	23年度	24年度	5年後 (26年度)	10年後 (31年度)
	図書館利用状況	館外貸出冊数	569,505冊	550,436冊	587,000冊	667,000冊
		館外貸出人数	155,163人	150,828人	160,000人	165,000人
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況						
<p>○新刊図書の購入 一般図書等 9,920冊、児童図書等 2,918冊、雑誌等 1,912冊を購入し提供した。</p> <p>○図書リサイクルの実施 除籍本の有効活用のため図書リサイクルを開催し、495人の個人が参加した。</p> <p>○システムの活用 インターネットによる予約件数が、20,158件から22,856件に増加した。</p> <p>○東北公益文科大メディアセンターとの連携 東北公益文科大メディアセンターを経由した貸出件数が、138冊から341冊に増加した。</p> <p>○相互貸借の利用 相互貸借による貸出件数が、507冊から730冊に増加した。</p> <p>○貸出冊数 ・高齢層を除くほぼ全ての年代において貸出冊数が減少し、特に女性層からの利用が36万9千冊から、35万2千冊に減少した。 ・分館における貸出冊数が、95,246冊から86,867冊に減少した。</p>						
事業の効果						
<p>○ホームページでの貴重な図書資料の公開や予約システム機能が、多くの利用者に利活用されている。</p> <p>○東北公益文科大との連携による「受取・返却サービス」の活用により学生や地域住民の利用が増加した。</p> <p>○他の公立図書館との連携により、相互に未所蔵資料へのリクエストに対応した。</p>						
点検結果・自己評価 (課題・方向性)						
評価	B	<p>○貸出人数、貸出冊数ともに減少したが、中央図書館や分館での新刊紹介や特設コーナー等の企画展示を工夫し、地域に密着した図書館として利用増につなげるとともに、施設についても検討を進める。</p> <p>○各種の子育て支援団体等へのPRに努め、児童図書の利用増を図る。</p> <p>○女性層の利用増加を図るため、蔵書構成等を検討する。</p> <p>○郷土資料の充実のため、資料収集等に力を入れる。</p> <p>○レファレンスシステムを活用し、迅速なカウンター業務を行う。</p> <p>○機器の耐用年数を考慮し、図書システムを更新する。</p>				

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう			
基本施策	7. 図書館活動の充実			
施策	(2) 光丘文庫の保全と活用			
担当部署	図書館			
事業の目的及び目標				
○目的 ・光丘文庫は、大正14年に竣工し、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持保存と公開を行う。本間家をはじめ多くの有志から寄贈された典籍や一般図書等が多く所蔵されており、その保管や分類整理及びこれらを活用した企画展示を行う。また、資料の閲覧のため全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行う。				
○目標 ・常設展示について、さまざまな視点によるテーマのもと、年間数回の展示替えを行い、貴重な資料のPRに努め入館者数の増加を目指す。また、本館とその所蔵資料を本市の歴史的遺産として後世に伝えていくため、建物の現況調査と保存及び活用方法について検討を行う。				
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況				
○所蔵古文書の整理・分類・保存の他、企画展示、利用者への案内・説明等を実施した。全国的にも貴重な資料であるため、多くの専門家が訪れている。				
	算出方法	22年度	23年度	24年度
	入館者数	4,509人	4,658人	4,225人
	利用者数	304人	333人	266人
常設展示 (17ケース) ・「追憶と創造～懐かしの雑誌展」 4月10日～9月23日 ・「江戸期庶民の教養～往来物と読本～」10月7日～3月31日 ・古典籍調査員によるギャラリートーク 1月24日				
レファレンス処理件数 72件				
○資料館移管資料及び国書追加寄贈分資料等の目録整理を実施 ○館報「光丘」の発行(年2回) (第141号 8/1、第142号 2/1) ○諸家文書目録Ⅶを発行(300部) ○本館建物の現況調査を実施(公益財団法人 文化財建造物保存技術協会に委託)				
事業の効果				
○全国各地からの来館される研究者の方々にも必要な資料を提供できた。 ○ギャラリートークの開催により、市民への資料紹介ができた。 ○諸家文書目録Ⅶの発行により資料整理及び情報提供が進んだ。 ○現況調査により基礎資料(建物の実測図、破損調査、地質調査)の整理が進んだ。建物が急傾斜地崩壊区域崖地の上にあることや、外壁モルタルに亀裂などが発生しているため、構造的には危惧される箇所があった。コンクリートブロック造という特殊な建物であるため、さらに詳細な調査が必要であると判明した。				
点検結果・自己評価(課題・方向性)				
評価	B	○入館者数及び利用者数が増加となるように、常設展示の内容やマスコミなどをおとしたPR方法等を工夫するとともに、昨年好評だったギャラリートークを継続して開催し、文庫所蔵資料を市民に紹介していく。 ○郷土資料の保存整理と利用者への提供は図書館の重要な業務であり、保管している資料等について、継続して目録を整理していく。また、郷土資料の散逸防止のため、さまざまな情報網を活用する。 ○現況調査を踏まえて、本館建物の保存計画や活用方法、また資料の移管を含め適正な管理のあり方や展示方法について、市長部局と協議しながら年度内に具体的方向性を決定する。		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう			
基本施策	7. 図書館活動の充実			
施策	(3) 子どもの読書活動の推進 (再掲)			
担当部署	図書館			
事業の目的及び目標				
○目的 ・子どもが気軽に読書に親しめ、読書活動が活発になることを目指して、子どもの読書環境を整える。				
○目標				
	算出方法	23年度	24年度	目標 (27年度)
	児童図書の間貸出冊数	179,353冊	173,226冊	183,000冊
	学校団体貸出の間貸出冊数	2,382冊	1,957冊	3,000冊
平成24年度 主な事業の概要及び実施状況				
○「酒田市子ども読書活動推進計画」に基づいて各種事業を実施した。 ・「お話会」は前年同様に23回実施したが、参加人数が359人から524人に増加した。 ・「赤ちゃんとお母さんの読み聞かせ教室」を前年同様に11回実施したが、参加人数が174人から221人に増加した。 ・「読み聞かせボランティア講座」を8回実施し、延べ98人が参加した。 ・「おやこ絵本づくり講座」を実施し、延べ53人の親子が参加した。 ・絵本作家の講演会には102人が参加し、同時開催の原画展には延べ310人が参加した。 ・「絵本だより (季刊年4回)」「学校向けパンフレット」「中・高生向けおすすめ本リスト」を作成し、保育園・幼稚園・学校等への情報提供を行った。 ・小・中学校からの要望により、調べ学習等へ協力し、15回から23回に増加した。 ・夏休み期間中、読書感想文の資料として課題図書や指定図書等のコーナーや工作・自由研究などの参考本を展示して活用を図った。				
事業の効果				
○「お話会」は、幼児期からの読書習慣の形成につながり、参加者も大幅に増加しており児童図書室の利用増加が期待される。 ○「赤ちゃんとお母さんの読み聞かせ教室」が好評で児童図書室を利用する若いお母さんが多く見られるようになり、児童図書室のPRにも役立っている。 ○「読み聞かせボランティア講座」は初心者不安解消や経験者のステップアップとなり、小学校や各施設等での読み聞かせの場で活用され、また新たなボランティアの育成にも繋がった。 ○「おやこ絵本づくり講座」は参加者からも好評であり、完成作品の一部は製本化の上、図書資料としても活用されており、絵本への関心が高まっている。				
点検結果・自己評価 (課題・方向性)				
評価	A	○子ども読書活動推進計画に基づく各種事業の企画立案においては、関係部所等との連携を充分に図る。 ○「赤ちゃんとおかあさんの読み聞かせ教室」はブックスタート事業と連携した一連の事業で参加者も大幅に増加しており、長期的な視点で今後も継続・充実させる。 ○講演会により、図書館活動に多くの人の関心を得ることができ、利用人数の増加が期待できる。 ○「絵本だより」や「学校向けパンフレット」等の活用により、学校等の団体貸出の増加を図る。 ○団体貸出先として、学校以外の施設等に対してもPRを行う。 ○レファレンスシステムを活用し、児童生徒からの相談業務を充実させる。		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす
基本施策	10. 歴史・文化遺産の保存と活用
施策	(1) 文化財等の保存と活用
担当部署	社会教育課

事業の目的及び目標

○目的
 ・地域の貴重な財産であり観光資源でもある文化財について、関係機関と連携しながら、地域の活力を活かし有効な保存、活用を図る。
 ・「湊町酒田の文化的景観」として本市の価値調査を行い、重要文化的景観の選定を目指す。
 ・市内に存在する資料について調査し、貴重なものについては指定を行う。

○目標
 ・企画展や観光との連携により、文化財施設の入館者数を増やす。

平成24年度 主な事業の概要及び実施状況																					
○出羽国誕生1300年記念事業 【予算額 1,117千円】 【決算額 1,115千円】 記念講演会、史跡めぐり、城輪柵現地研修会、歴史講座の開催	文化財施設入館者数 (単位:人)																				
○文化的景観保護推進事業 【予算額 2,005千円】 【決算額 2,003千円】 特性調査の実施 調査検討委員会の開催2回 // 部会の開催2回	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旧燈屋</td> <td>17,141</td> <td>16,051</td> <td>16,592</td> <td>企画展 年5回</td> </tr> <tr> <td>旧白崎医院</td> <td>2,458</td> <td>1,947</td> <td>2,128</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旧阿部家</td> <td>2,949</td> <td>2,984</td> <td>2,967</td> <td>企画展示ほかイベント開催</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	H22	H23	H24	備考	旧燈屋	17,141	16,051	16,592	企画展 年5回	旧白崎医院	2,458	1,947	2,128		旧阿部家	2,949	2,984	2,967	企画展示ほかイベント開催
施設名	H22	H23	H24	備考																	
旧燈屋	17,141	16,051	16,592	企画展 年5回																	
旧白崎医院	2,458	1,947	2,128																		
旧阿部家	2,949	2,984	2,967	企画展示ほかイベント開催																	
○さかた歴史街道事業 【予算額 1,502千円】 【決算額 1,339千円】 「史跡めぐり」を開催し、酒田の歴史や文化を学ぶ機会を提供した																					

事業の効果

○24年度は出羽の国が誕生して1300年にあたるため、出羽の国府と推定される城輪柵跡の歴史的な重要性と古来より守り伝えてきた伝統文化を再評価する機会として捉え、記念事業を開催して多くの市民の参加を得た。とくに高校生の書道パフォーマンス、城輪柵での採火式など児童生徒の事業への参加を促進した。

○貴重な文化財や歴史資料の散逸を防ぐとともに、適正に管理保存し、機会を設けて展示等を実施することにより、多くの市民へ文化財保護の重要性をPRすることができ、理解を深めることができた。

○24年4月に「庄内出羽人形芝居」を市の無形民俗文化財に指定した。

点検結果・自己評価 (課題・方向性)	
評価	C
	<p>○出羽国誕生1300年記念事業は単年度事業であるが、この事業をきっかけとして、今後は城輪柵創建1200年(2015年)へ向けて、さらに市民が酒田の歴史を知る機会を広く提供していく必要がある。</p> <p>○文化財や歴史的資料は地域の貴重な財産であるため、今後も継続して収集と保存に努める必要がある。</p> <p>○各種施設整備に伴い、最近では発掘調査が増えている状況にあるため、専門職員の養成及び配置について検討する。</p> <p>○文化的景観保護推進事業については、「湊町酒田」の特性や価値がまとまりつつあり、それらを地域住民にPRし、理解を深める活動を行っている。</p>

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす
基本施策	10. 歴史・文化遺産の保存と活用
施策	(2) 地域における民俗文化財の保存と活用
担当部署	社会教育課

事業の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形文化財の保護・継承を行う人材や団体を育成、支援する ・「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能や伝統文化の保護を目的に、民俗芸能団体の後継者の育成、関係団体の交流を図り、団体活動を支援する。 ・酒田市民俗芸能保存会への加盟の促進を図る。
-----------	---

平成24年度 主な事業の概要及び実施状況																					
<p>○文化財保存活動支援事業</p> <p>【予算額 2,315千円】</p> <p>【決算額 2,315千円】</p> <p>○さかた歴史街道事業</p> <p>【予算額 1,502千円】</p> <p>【決算額 1,339千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田市民俗芸能保存会、松山能振興会、松山藩荻野流砲術伝承保存会に対する支援を行った。 ・「民俗芸能フェスタ」を開催し、県内外の民俗芸能を紹介するとともに、市内の保存団体への出演機会を提供した。 また、永年の伝統芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各地域における上演日や演目などをまとめたプログラムを作成するなど、加盟団体を広く市民に紹介した。 	<p>入場者数 (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能フェスタ</td> <td>972</td> <td>810</td> <td>1,037</td> </tr> <tr> <td>黒森歌舞伎酒田公演</td> <td>521</td> <td>513</td> <td>650</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能保存会加盟団体数</td> <td>31</td> <td>32</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table>		H22	H23	H24	民俗芸能フェスタ	972	810	1,037	黒森歌舞伎酒田公演	521	513	650		H22	H23	H24	民俗芸能保存会加盟団体数	31	32	33
	H22	H23	H24																		
民俗芸能フェスタ	972	810	1,037																		
黒森歌舞伎酒田公演	521	513	650																		
	H22	H23	H24																		
民俗芸能保存会加盟団体数	31	32	33																		

事業の効果	<p>○「民俗芸能フェスタ」は43回を数え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と、他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や情報交換の場として、重要な役割を果たした。</p> <p>○小学生から高校生まで出演機会の提供に努め、民俗芸能の底辺拡大を図ることができた。</p>
-------	--

点検結果・自己評価 (課題・方向性)	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民俗芸能保存会の加盟団体が1団体増加し、合計33団体となった。 ○文化財は地域の貴重な財産であり、後世に継承・保存していくために、一層の周知が必要である。 ○今後も未加盟団体の加盟を促進していくとともに、民俗芸能保存会と連携して、後継者育成などの課題解決に向けて支援を行っていく。 ○「民俗芸能フェスタ」の映像記録、酒田市民俗芸能保存会が行っている各保存会の活動記録、黒森歌舞伎酒田公演の映像記録などを後継者の育成などに活用を図っていく。

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす
基本施策	10. 歴史・文化遺産の保存と活用
施策	(3) 地域資料の収集と保存
担当部署	社会教育課

事業の目的及び目標

○目的
 ・市立資料館、松山文化伝承館の管理運営と活用を図り、郷土の歴史等に対する市民の理解を深めることを目的とする。
 ・文化財の保存と管理を行うとともに、市民への公開に努める。
 ・歴史的に価値のある郷土の資料の散逸を防止するため、購入や受け入れを行う。

○目標
 ・企画展示を工夫するなどして入館者数の増加を目指す。

平成24年度 主な事業の概要及び実施状況					
○資料館・文化伝承館管理運営事業 【予算額 32,661千円】 【決算額 31,669千円】	入館者数 (人)				
	施設	H22	H23	H24	備考
	資料館	7,458	5,645	6,151	企画展 年6回
	文化伝承館	4,053	3,274	6,188	企画展 年5回
○学校教育との連携 ・市立資料館 小中学校来館校数 20校 来館者総数 1,118人 ・城輪柵跡 小学校の見学校数 8校 見学者総数 279人	阿部記念館	227	253	159	
	文化財及び歴史資料の収集・保存状況 (件)				
	施設	H22	H23	H24	
	市立資料館	525	1,232	2,383	
	松山文化伝承館	59	138	125	

事業の効果

○史跡や指定文化財を広く市民に公開し、地域の歴史や文化財への理解を深めるきっかけづくりのため、各種の企画展示事業を開催し、多くの市民へ文化財をPRすることができたほか、学校教育にも活用された。
 ○企画展示を工夫し、PRに努めたことにより、震災前に入館者数に回復しつつある。

点検結果・自己評価 (課題・方向性)	
評価	C
	<p>○企画展示を工夫するなどして、施設入館者は前年より増加し、26年度の目標数値に達している。</p> <p>○市立資料館と松山文化伝承館を中心に、郷土の歴史資料の収集、保存に努めた。</p> <p>○城輪柵や市立資料館は学校教育の一環としても活用されており、今後も授業の効果が上がるように努めるとともに、他の施設についても連携を検討していく。</p> <p>○阿部記念館の展示内容も含めた今後の方向性を検討する。</p>

平成24年度 地域の教育力向上事業実績

コ ミ 振 名	実施事業概要	実施事業数 (件)	参加人数 (人)	決算額 (千円)
1 西荒瀬コミュニティ振興会	育てよう! わくわく夢の森(学習林である、クロマツ林の手入れと学習)花いっぱいフレンドリー活動(花壇、プランターへの花植え)日向川清流体験(日向川の恩恵を学び、自然を大切にすることを養う)ふるさと産品調理教室(子どもたちに地場産品を主にした食物のおいしさを伝える。)干し柿づくり(児童が作製し、高齢者の一人ぐらしへ配布)鮭料理教室(日向川で捕獲した鮭を使った料理を学ぶ)	6	476	283
2 新堀コミュニティ振興会	3世代交流(稲作、儀あみ)、最上川自然探検隊(最上川川下、刺し網、カニ漁)、伝統芸能伝承(五力村神楽舞)、世代間交流(七夕まつり、風づくり・風上げ)	5	671	300
3 広野コミュニティ振興会	3世代交流事業(花植え(広野小校門花壇の花植え)、陶芸に親しむ(陶芸体験)、縄ない体験、餅つき体験、紅花を育てる(紅花の栽培、加工)、手作り体験(紙飛行機作成、手作りうどん、竹水餃子作成)、ふれあい農園(ピーマン、ナス、ジャガイモ、スイカ栽培)、伝統芸能(庄内出羽人形学ひと体験)、旧跡を尋ねて(旧跡、神社の歴史を学ぶ)	9	720	300
4 浜中コミュニティ振興会	少年少女茶道教室、子育て研修会(講演会、コンサート鑑賞)、浜中・黒森交流会(地引網体験)、スポーツ教室	4	608	300
5 黒森コミュニティ振興会	孫親学級(昔の遊びや工作体験)、浜・黒6学年交流会、三世代くもりんピック(ウオーキング)、少年ふれ太鼓、少年歌舞伎・太鼓練習会、あったか年越大作戦(地域高齢者へのボランティア活動)、黒森っ子子育てネットワーク(上映会)	7	293	300
6 十坂コミュニティ振興会	とさつこぬくりん(読み聞かせ交流、おやつ作り)、三世代交流(昔の暮らしの体験)、親子ふれあい健康講座(調理実習等)、ハンジーサークル(調理実習)	4	494	239
7 東平田コミュニティ振興会	農作業体験(稲作)、自然とのふれあい(魚釣り大会)、歴史郷土体験(登り窯による陶芸づくり)、孫親とふれあい(高齢者との交流事業)	4	260	230
8 中平田コミュニティ振興会	一坪菜園(親子で作物栽培)、おばけかぼちゃハロウィンコンテスト、子ども神楽(手蔵田神楽)、どんぐりの読み聞かせ会	4	351	300
9 北平田コミュニティ振興会	北風っ子クラブ(施設研修、調理実習、作品づくり講座)、園児の茶道体験、お化けかぼちゃ・ひょうたん作り(地域協力による小学生卒業記念品製作事業)、ひなまつり集会(小学生の茶道教室)	5	386	300
10 上田コミュニティ振興会	上田太鼓教室、サマースクール(施設見学、調理体験、創作活動、軽スポーツ)、巣箱作成教室、こたつ交流会(普遊び等)、ひなまつり茶会	5	752	300
11 本橋コミュニティ振興会	ふるさと文化学習事業(ハムベーコン作り)、ももたてグローバル・スタディ事業(稲作体験、サクラマス放流、花の栽培と舞茸育成)、ももたて地域つながり事業(ボランティア講習会、世代間交流、通学合宿)	7	1497	300
12 南道佐コミュニティ振興会	ホテルのタペ、まなびの里教室(刺し子、英会話フランス、ペタンク)、ふれあいグラウンドゴルフ、南道佐の歴史めぐり、すくすくみんなで交流大会(老人クラブと保育園児の交流)、チャレンジそば打ち体験、卒業お茶会	7	593	300
13 一條コミュニティ振興会	通学合宿、交通安全教室、壁画作り、敬老の日お手紙作り、ハロウィンコンサート、クリスマス交流会、雪遊び・お汁粉クッキング、ラフターヨガ教室	8	477	300
14 観音寺コミュニティ振興会	にこにこ体験隊(田植え、カヌー体験、夏祭り、稲刈り、ネイチャークラフト、芋煮、餅つき、だんご木作り、雪遊び、かまくら作り等)、絵灯籠作り	2	334	300
15 大沢コミュニティ振興会	大沢地区地域交流会(太鼓演奏、料理教室等)、大沢清流太鼓活動、大沢地区通学合宿、畑の学校(ジャガイモ、サツマイモ等)	4	674	300
16 日向コミュニティ振興会	日向ぼっこスクール(なめこ栽培、畑作、ほたる観賞、ピザ製作、日向川の学習、干し柿作り、クリスマス事業、雪まつり)	8	395	300
17 南部コミュニティ振興会	地見っ子ふれあい協議会(自然体験、施設見学、ろうそく絵付け、りんご狩り、雪中ゲーム、スノーランタン作り)、通学合宿、伝統芸能鑑賞会(田ヶ沢神楽)、そば打ち、手作りおやつ、高齢者世帯にクリスマスカード、弁当等の作成と配布)	6	432	300
18 山寺コミュニティ振興会	作物栽培と料理講座(米、豆、さつまいも、豆腐づくり)、読み聞かせ事業、伝統芸能文化伝承(狂言、茶道、生け花等、百人一首)、親子体験(ジャンボケーキ作り)、ホテルの里ウオーキング、チャレンジ講座(早起き体操、科学と遊ぼう)、小動物と触れ合おう	9	1229	300
19 松嶺コミュニティ振興会	チャレンジ教室(野菜作り、早起き体操、茶道、お菓子づくり、ふれあいスポーツ教室、書初め、ケーキ作り)	7	430	300
20 内郷コミュニティ振興会	木工教室、内郷学区通学合宿、親子料理教室、新社会人ボランティアフェスティバル	4	62	300
21 田沢コミュニティ振興会	中学生サークル活動、地元体験事業(普遊び、ペタンク、わんぱく体操、リース教室、バター作り、そば打ち体験)、地元施設でのコンサート	3	225	300
22 東陽コミュニティ振興会	野焼き体験教室、東陽通学合宿、農業体験・料理教室(そば)、花まる交流会(花植え、野菜栽培)	4	279	300
23 郡籠・山谷コミュニティ振興会	宿泊研修、水生生物学習会、陶芸教室、縄ない体験と干し柿づくり、料理教室	5	98	180
24 南平田コミュニティ振興会	伝統芸能伝承(飛鳥祭奴振り・権橋神代神楽)、さしこ教室、そば打ち体験、粘土細工教室	3	596	200
25 砂越・砂越緑町コミュニティ振興会	科学マジック教室、陶芸教室、通学合宿、防災ラップごはん、石けんづくり、そば打ち体験、もちつき・竹細工	7	283	279
		137	12,615	7,111

生涯学習推進講座開催事業実績

区分	事業名	実施回数	人数
幼 児	孫と一緒にリトミック	4	88
	わくわくちびっこ広場	3	394
	わらべのひな祭り展	1	572
	親子でヒップホップダンス	2	124
少 年	さかたっ子・チャレンジ冒険団	3	48
	酒田マリーンジュニア合唱団	44	1,068
	新春書初め・もちつき大会(正月行事)	1	204
	わいわい出前講座	9	1,089
	子どもお菓子づくり	2	43
	特別出前講座「わたしたちの先輩」	3	156
	地域人材交流講座	328	6,964
	ほしぞら教室	1	6
青 年	女子力UP講座	5	53
	酒田のラーメン講座	4	56
	基本の料理	10	180
	災害その時こうすれば	5	66
	手のひらサイズのプチブリザ	3	21
	日本酒☆おいしい新発見	5	72
	新成人のマナー講座	1	13
	成人式実行委員会	12	169
	ピラティス&ヨガ	8	230
成 人	住まいを快適にするためのDIY	5	74
	家づくり講座	3	28
	布ぞり作り講座	4	56
	おとこの生活向上委員会	8	89
	書の冒険・カリグラフィックアート	5	30
	私のヨーロッパ・あなたのヨーロッパ	4	64
	簡単粘土細工	5	30
	暮らしに役立つ重曹の使い方講座	2	22
	東北公益文科大学市民講座(市民大学:昼の部)	5	180
	東北公益文科大学市民講座(市民大学:夜の部)	3	38
	東北公益文科大学市民講座(出前講座)	6	372
	さんさん学級	6	150
家庭教育	すくすく出前講座	27	1,255
	地域家庭教育講座	24	1,521
	いきいきママちゃん講座	5	48
	家庭教育モデル講座	9	349
	子育てを楽しもう「パパと一緒に」	3	26
	家庭教育セミナー	3	89
	少年団体リーダー研修会	2	82
指導者養成	ホール音響・照明操作講習会	6	123
	16ミリ映写機操作講習会	1	5
	地域の教育力向上スキルアップ講座	2	37
	もてなしの心で楽しいティータイム	2	22
	男性のためのパンづくり講座	1	16
	出羽遊心館春の市民茶会	1	370
催し	文化講演会 期日 平成24年12月15日(土) 講師 安藤 和津 氏 演題 『こどもと親の自分育てのアドバイス』	1	209
	生涯学習まつり2012 期間 平成24年10月19日～21日 参加団体67団体 会場 総合文化センター	3	15,965
	正月行事展	2	2,221
	凧揚げ大会	1	200
	酒田マリーンジュニア合唱団定期演奏会	1	200
合計		604	35,487

年度	講座数	実施回数	延べ人数
23年度	47	611	35,575
22年度	52	629	37,118

東北公益文科大学市民講座実績(内訳)

・市民大学講座

年間テーマ 24「暮らしと情報」		
昼の部テーマ 「情報化社会とうまく付き合う ～格差解消のために出来る事」		
区分	演題	受講者数
1	ココロを伝える	39
2	道路交通における格差を考える	35
3	情報のバリアフリーをめざして	38
4	情報格差解消のためのソーシャルサポート	35
5	情報共有でつながりを育む	33
計		180

夜の部テーマ 「急激な情報化と私たちの暮らし ～本当に必要な情報とは」		
区分	演題	受講者数
1	何が正しい情報化?～クリシンのススメ」	14
2	インターネット詐欺を見抜く簡単な方法	12
3	人はなぜ、「うわさ」を信じるのか～流言の社会学」	12
計		38

23年度	講座数	受講者数
昼の部	5講座	156
夜の部	3講座	77
22年度	講座数	受講者数
昼の部	5講座	158
夜の部	3講座	88

・出前講座

区分	テーマ	受講者数
1	保育園における第三者評価について	90
2	魅力あるコミュニティづくり・まちづくりパート2	63
3	人はなぜ「うわさ」を信じるのか～流言の社会学	60
4	防災に強い近所づきあいをめざして	98
5	スペイン・水と庭園	16
6	酒田繁栄の基盤・酒田港	45
計		372

年度	回数	受講者数
23年度	6回	279
22年度	6回	197